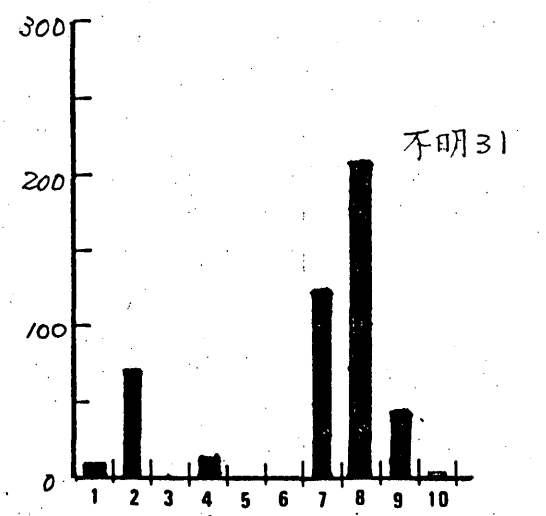
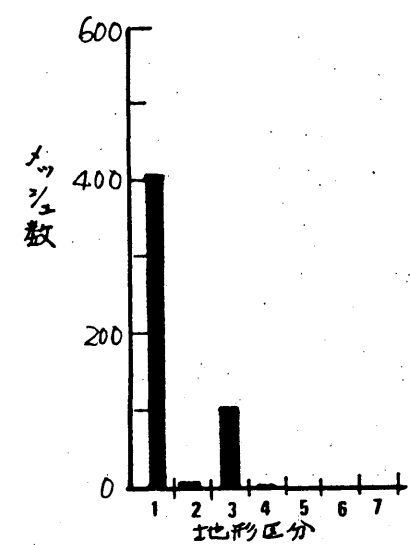


- 土壌区分別頻度図
- 1 岩屑土
  - 2 未熟土
  - 3 黒ボク土
  - 4 乾性褐色森林土
  - 5 褐色森林土
  - 6 湿性褐色森林土
  - 7 ホドソル
  - 8 赤黄色土
  - 9 低地土
  - 10 グライ土
  - 11 泥炭土
  - 12 その他



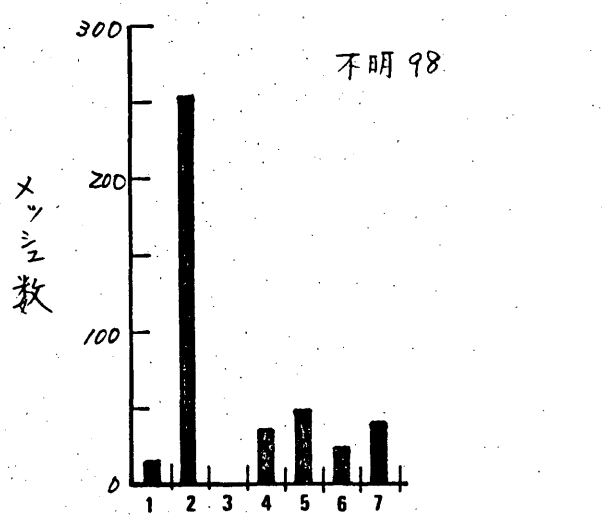
- 地質(岩石)区分別頻度図
- 1 未固結堆積物
  - 2 固結堆積物
  - 3 石灰岩
  - 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
  - 5 シラス
  - 6 ローム
  - 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
  - 8 深成岩
  - 9 変成岩
  - 10 表示のないもの

26 30 34 38 42 46 (1°)



地形区分別頻度図

- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 緩丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂洲



地質(時代)区分別頻度図

- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

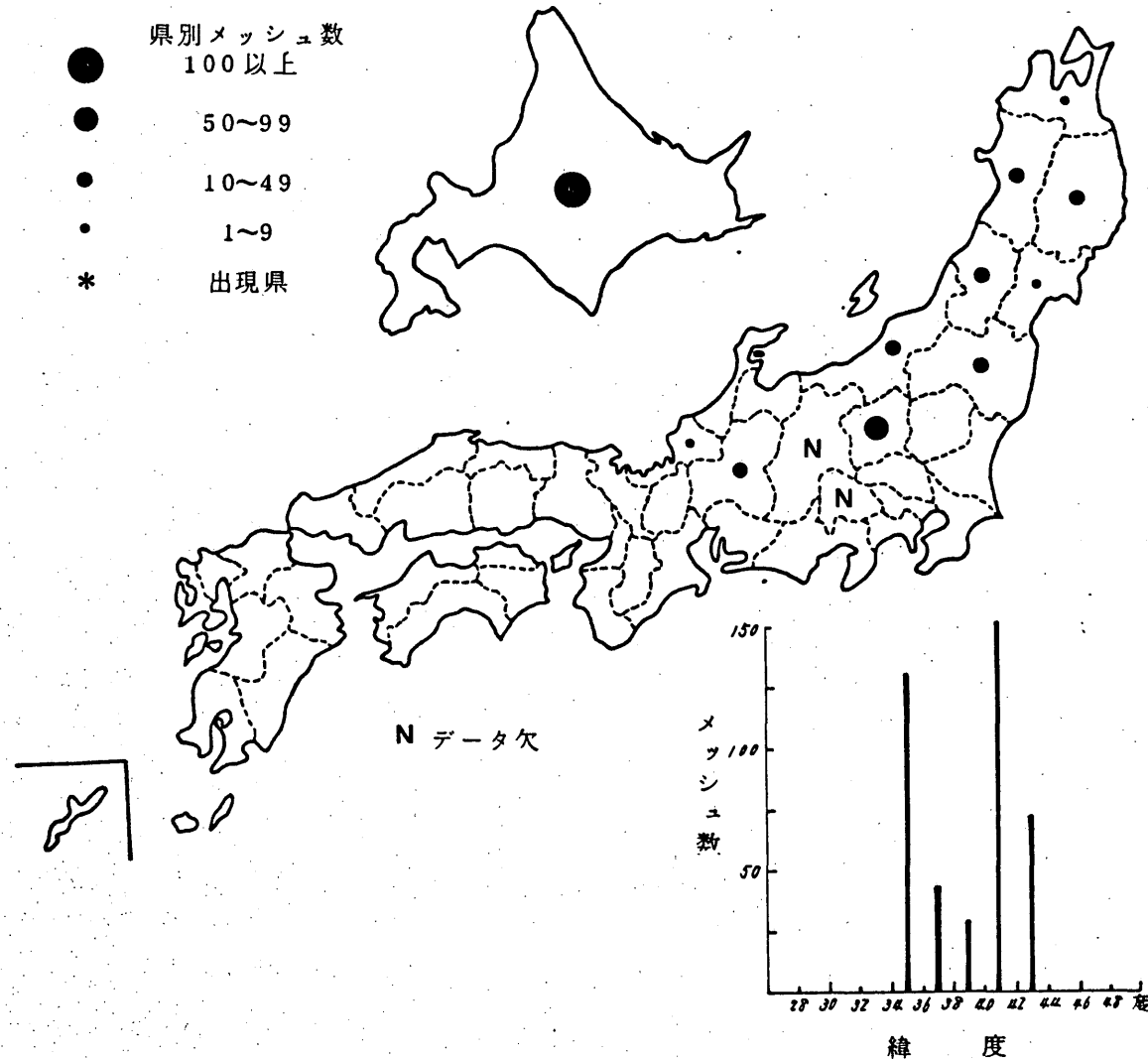
ササ自然草原

Sasa spp. community

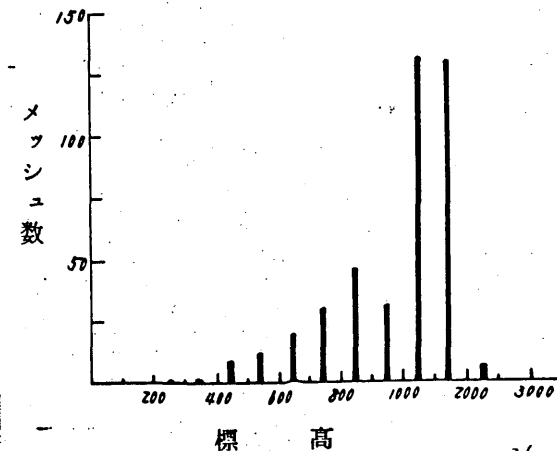
〈相観〉常緑性木性ササの優占する草原。  
 〈生育地〉高山帯または亜高山帯において、谷筋の雪崩地や崩壊地、稜線部や山頂部の風衝地、風背側斜面の多雪地、湿原周辺など、森林の成立しないうちに分布している。  
 〈種組成〉日本海側多雪地帯を中心に、チシマザサが優占することが多く、一部でクマイササ、チマキササ、オオバザサなども優占している。太平洋側では養老山地などに夏緑性のミヤコザサが生育している。ササに混って、クロウスゴ、ココウラクソフソ、アカミノイヌツゲなどが広くみられ、亜高山帯上限付近ではハイマツ、下限付近ではブナ、ハイイヌガヤ、ハイイヌツゲなどが生育している。ササの下層にはミフバオウレン、マイブルソウ、ゴゼンタケバナ、ソルシキミなどの亜高山帯に広く出現する種が低被度で生育している。ササ草原の構成種は隣接するオオシラビソ群落、ササ-ダケカンバ群落、ウラジロヨウラク-ミヤマナラ群落などと共通するものが多い。ササ草原に結びつく特産の種はみられない。  
 〈群落の特徴〉亜高山帯の稜線部の風衝地、風背側斜面の多雪地、湿原周辺などにみられるササの優占する草原である。チシマザサの生育域がもっとも広い。  
 〈分布〉北海道から福井、岐阜県までの日本海側多雪地帯の山岳に分布している。  
 〈その他〉自然植生(ササ自然草原)と代償植生(ササ群落)との識別はかなり困難である。常緑性ササが密生するため一般に常緑性群落となっている。盗掘、ふみ荒しなどの心配は少ないが、自然環境の指標としては重要なため、現存するものはできるだけ保存することが望ましい。

\*21100 ササ自然草原

- 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9
- \* 出現県



コード	群落名	メッシュ数	出現県
Z1100A	ササ自然草原	398	北海道*、青森、岩手、宮城、福島、群馬、新潟、福井、岐阜
Z1100B	チシマザサ-オウソクソウ群落	0	北海道
Z1101C	チシマザサ群落	31	秋田、山形
	計	429	



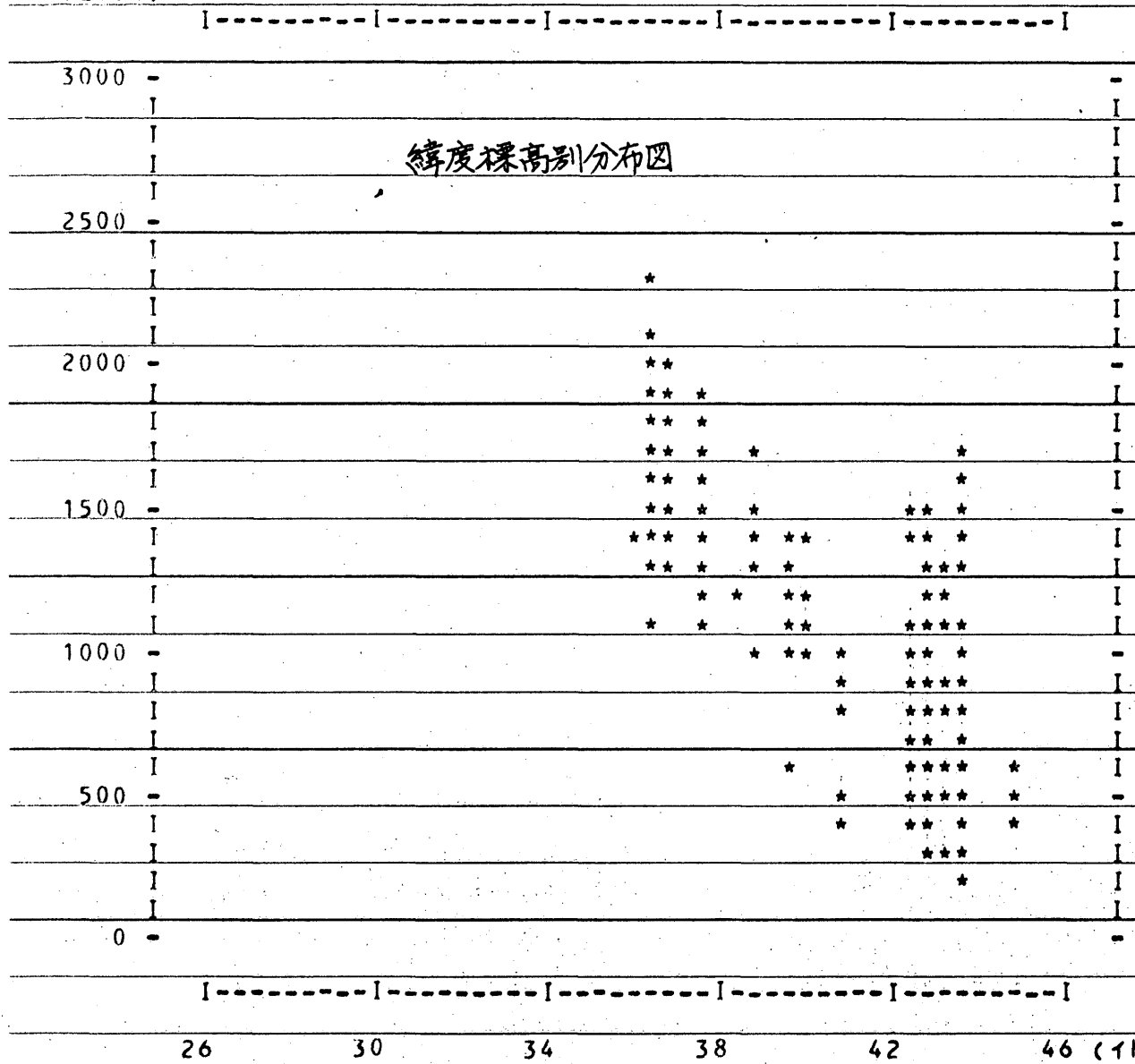
\*1県で2群落以上出現する場合、メッシュ数のおとしを群落

(七ヨウコウ)

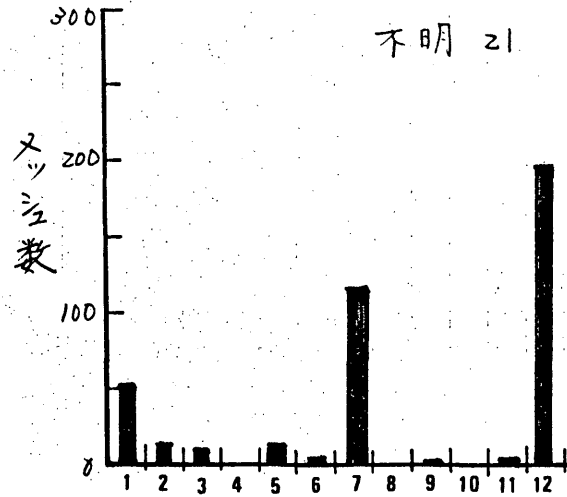
# ササ自然草原

( \*21100 )

### 緯度標高別分布図

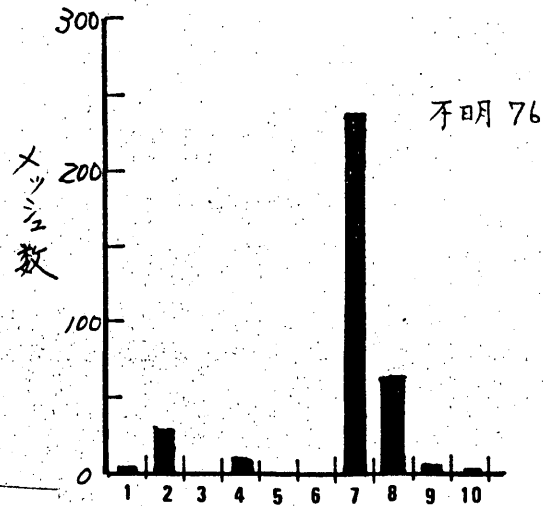


### 土壌区分別頻度図



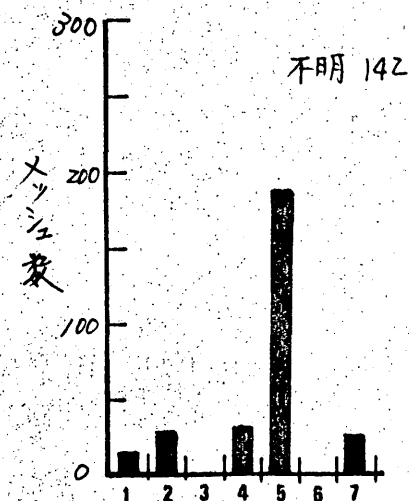
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ポドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

### 地質(岩石)区分別頻度図



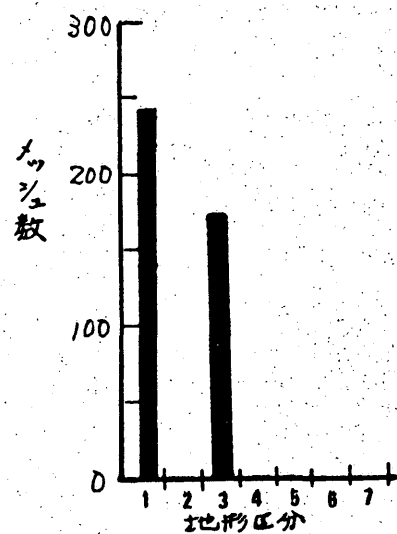
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

### 地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

### 地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、残丘
- 6 低地
- 7 河川、砂州

ウラジロヨウラク-ミヤマナラ群団

Menziesio - Quercion

<相観> 落葉広葉樹からなる亜高山林または低木林。  
 <生育地> 日本海側多雪地帯の亜高山帯からブナクラス域にかけて、強い多雪作用(雪崩、雪圧)と風衝作用のためにオオシラビソ群集などの針葉樹林が成立しないところに分布している。オオシラビソ群集の発達する斜面の下部凹地、風衝の強い山頂部や稜線部、風背地の残雪の多い立地などにみられる。

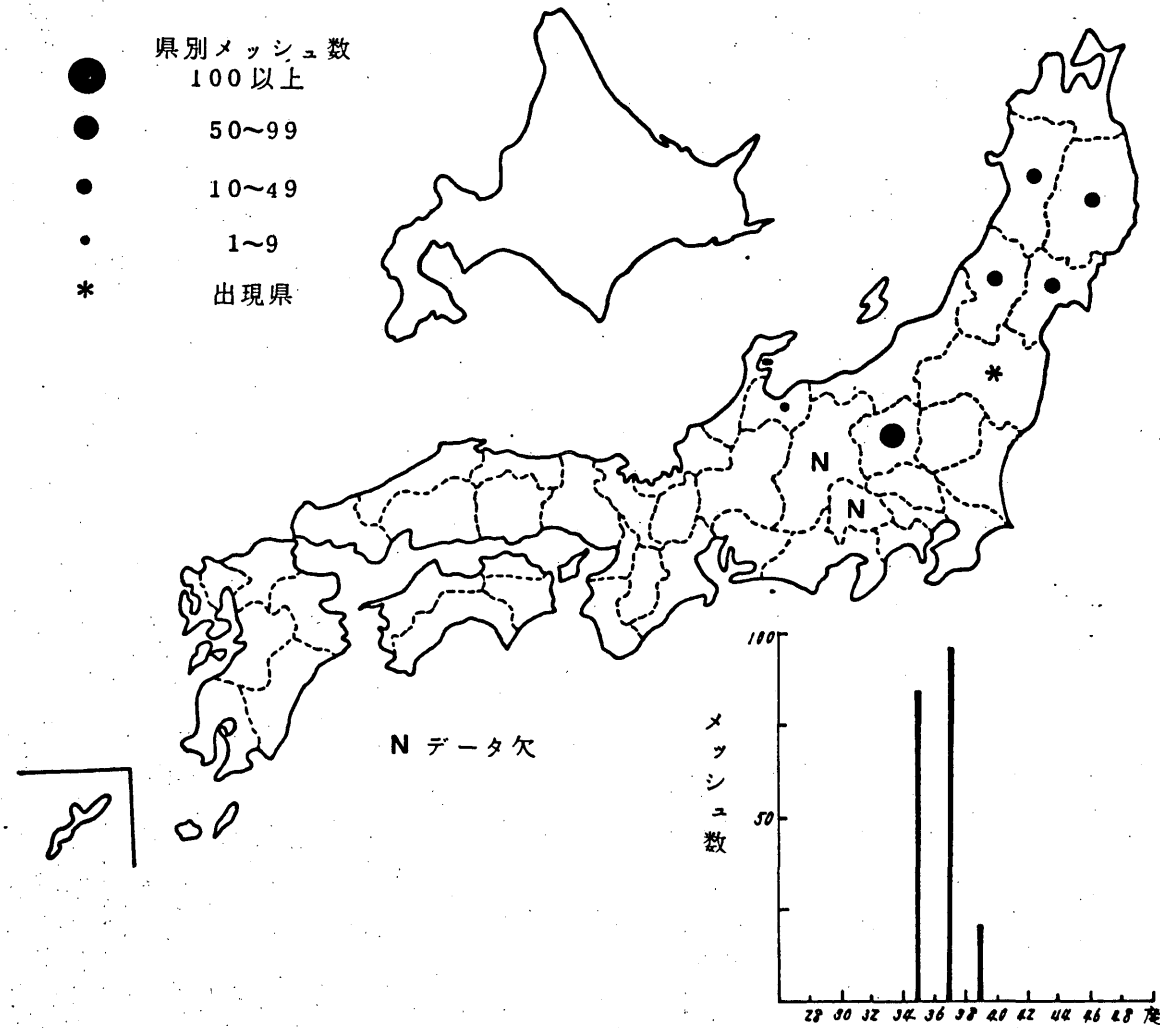
<種組成> 風衝の強い山頂部や稜線部では、亜高山帯からブナクラス域にかけての移行部にミヤマナラが優占することが多く、マルバマンサク、オオカメノキ、リョウブなどのブナ林の構成種が混生している。高標高になると、ミネカエデが優占することが多い。その他、ミネサクラ、ツケカンバ、ナナカマド、ウラジロヨウラク、ウラジロハナヒリノキなどの落葉広葉樹やハクサンエンヤクナゲなどの常緑広葉樹が全般的にみられる。林床にはツルシギミ、ツルツケ、マイヅルソウ、ミツバオウレン、ヤマソデツ、イワカガミなど、亜高山帯針葉樹林に広く出現する種が生育している。一方、風背の多雪地や雪崩地では低標高でオオバツツジ、ヒメヤシヤブシ、クニウツギなどが混生し、高標高でチレマササが優占することが多い。林床にはニッコウキスゲ、コバイケイ、モミジカラマツ、ショウジョウソウ、イワイチョウなどの草本植物が生育している。

<群落の特徴> 日本海側多雪地帯の亜高山帯において、強い風衝を受ける稜線部や風背地の残雪の多い立地にみられる落葉広葉樹の低木林である。ミヤマナラ、ミネカエデ、オオバツツジなどが優占している。

<分布> 奥羽山地、北上山地の風衝地を中心とする北日本の多雪地帯に分布している。

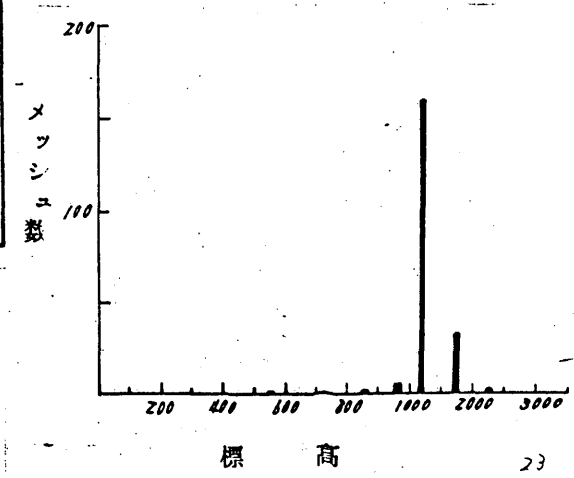
\*21300 ムラジロヨウラク-ミヤマナラ群団

- 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9
- \* 出現県

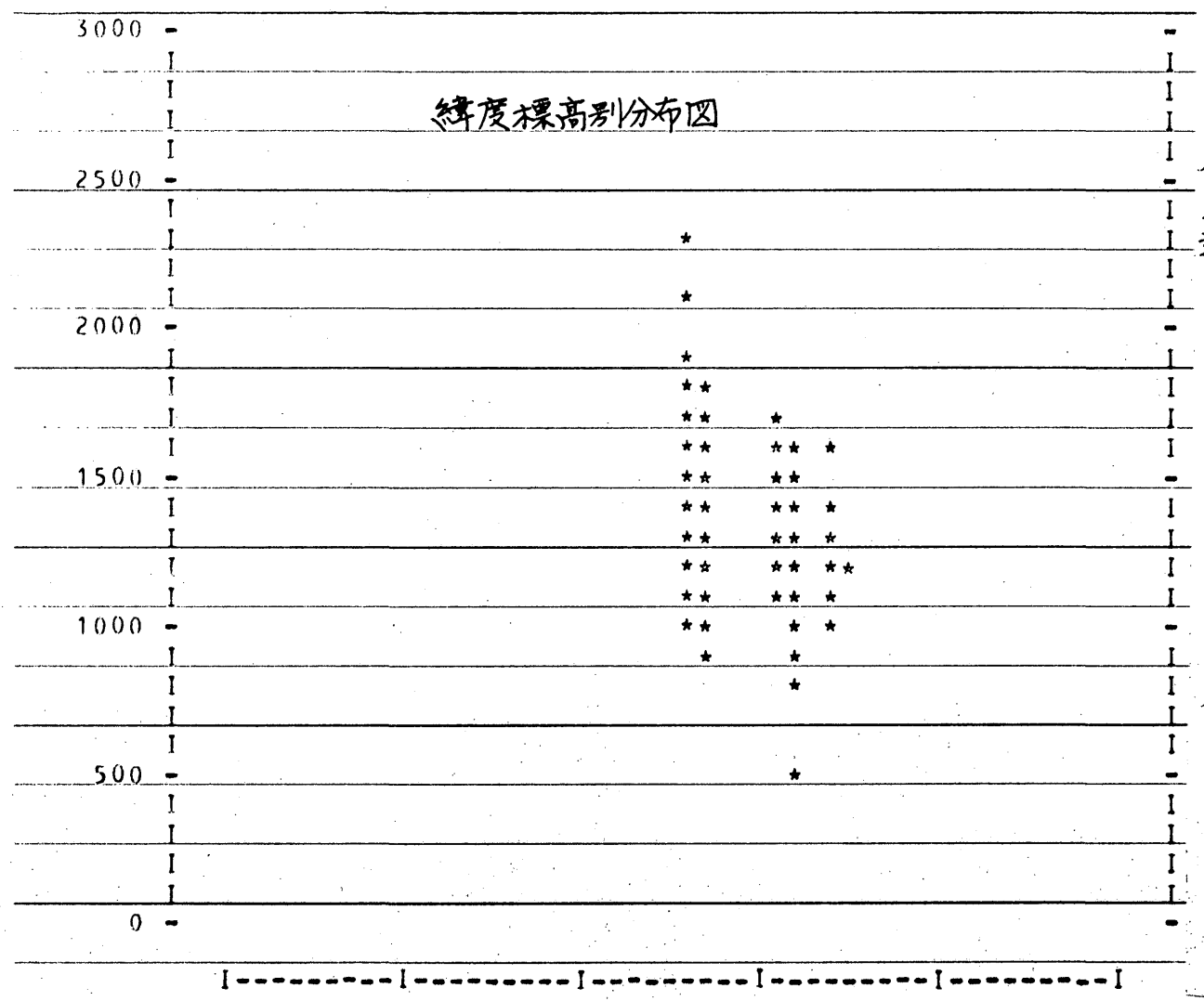


コード	群落名	メッシュ数	出現県
21300A	ウラジロヨウラク-ミヤマナラ群団	183	岩手, 宮城, 秋田, 福島, 群馬, 富山,
21300B	ミヤマナラ群落	14	山形*
21300C	ナナカマド-ミネカエデ群落	5	山形
	計	202	

\* 1県で2群落以上出現する場合、メッシュ数のむらもみ群落



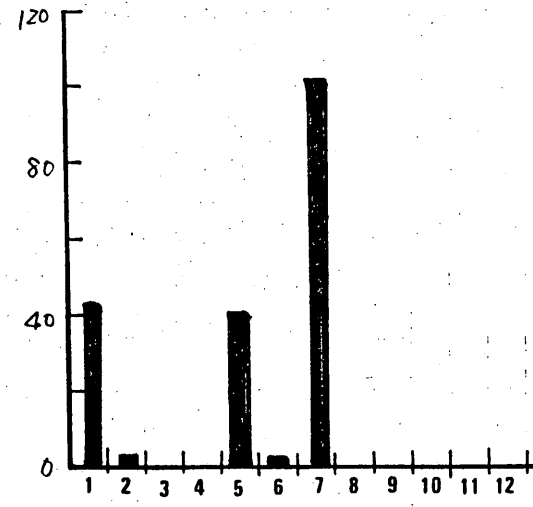
緯度標高別分布図



サンプル数

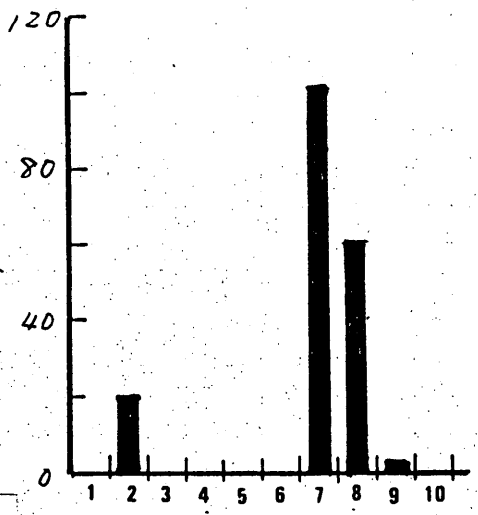
サンプル数

土壌区分別頻度図



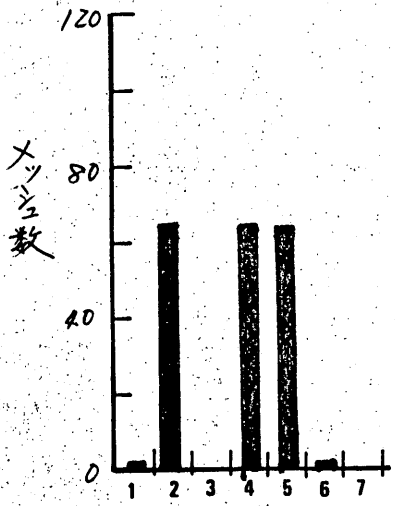
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホトソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



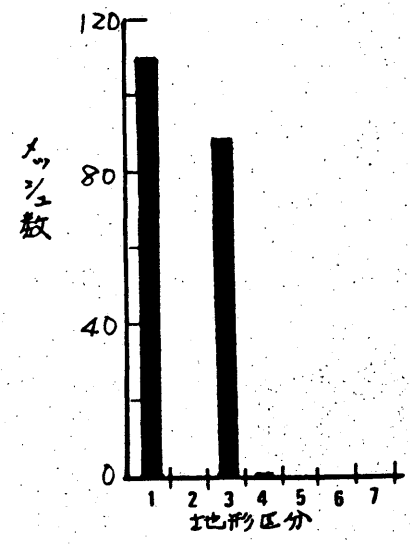
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、残丘
- 6 低地
- 7 河川、砂州

ササ群落

Sasa spp. community

〈相観〉ササの優占する草原。

〈生育地〉エゾマツ林、オオシラビソ林、ダケカンバ林などの伐採跡地や山火事跡地に分布する。風衝の強い稜線部や山頂部、風背側斜面の多雪地などでは森林の復元が妨げられ、半自然草原として長い間持続群落が形成される。

〈種組成〉亜高山帯自然植生のササ草原とほとんど変わらない。ササ草原の項を参照。

〈群落の特徴〉亜高山帯の森林の伐採跡地や山火事跡地などにみられるササの優占する草原である。エゾマツが広く生育している。風衝の強い稜線部や山頂部、風背側斜面の多雪地などでは、半自然草原として持続しており、しばしば自然植生との識別は困難である。

〈分布〉日本海側多雪地帯の亜高山帯の稜線部や山頂部を中心に点在している。

Ⅲ 亜寒帯，亜高山帯代償植生

\* 30100 ササ群落

県別メッシュ数

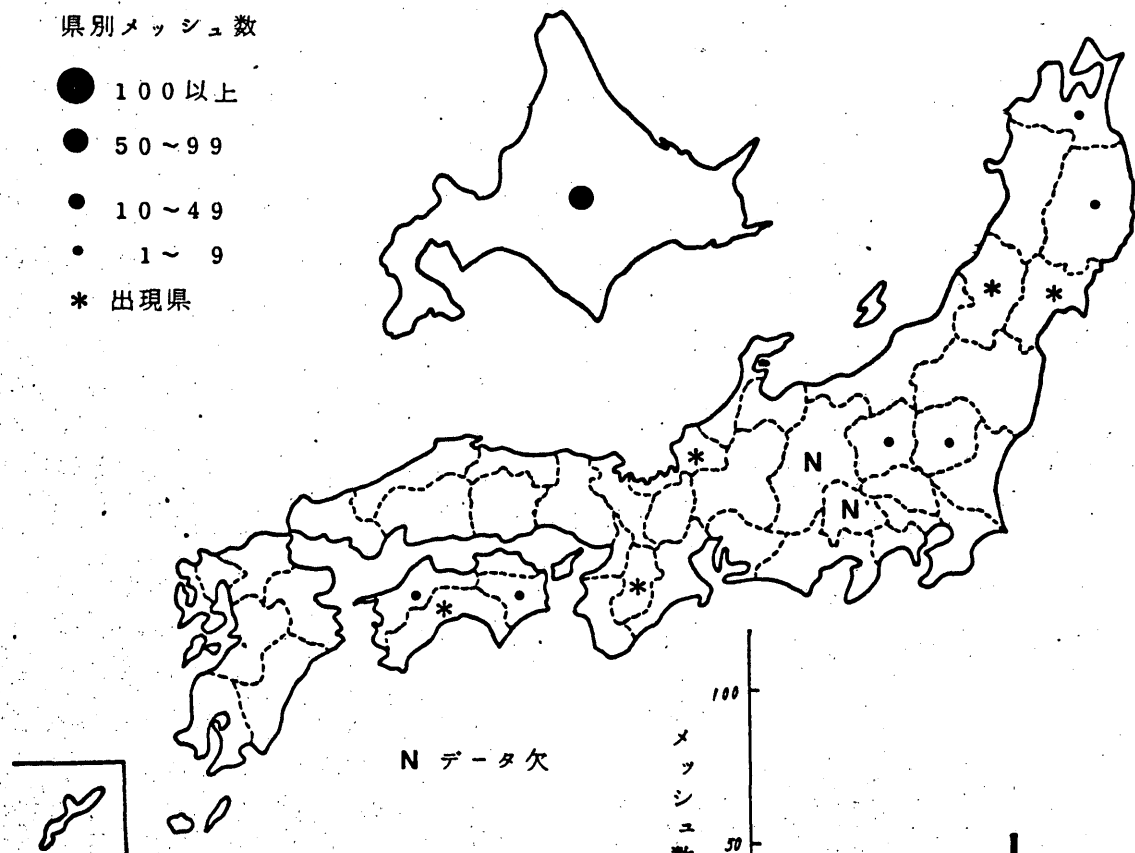
● 100以上

● 50~99

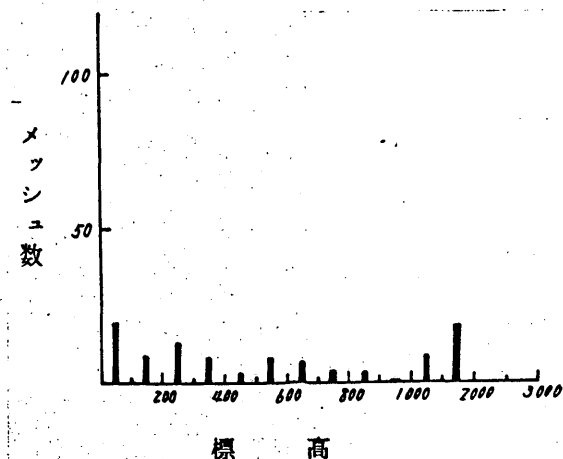
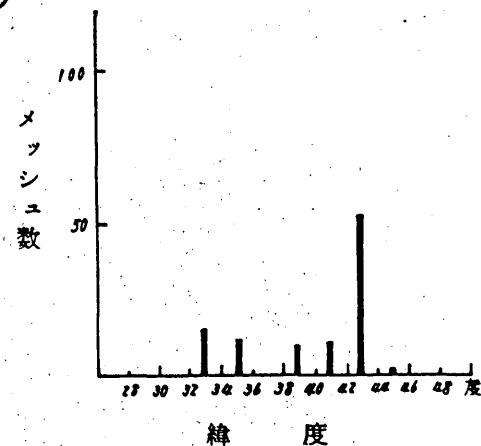
● 10~49

● 1~9

\* 出現県



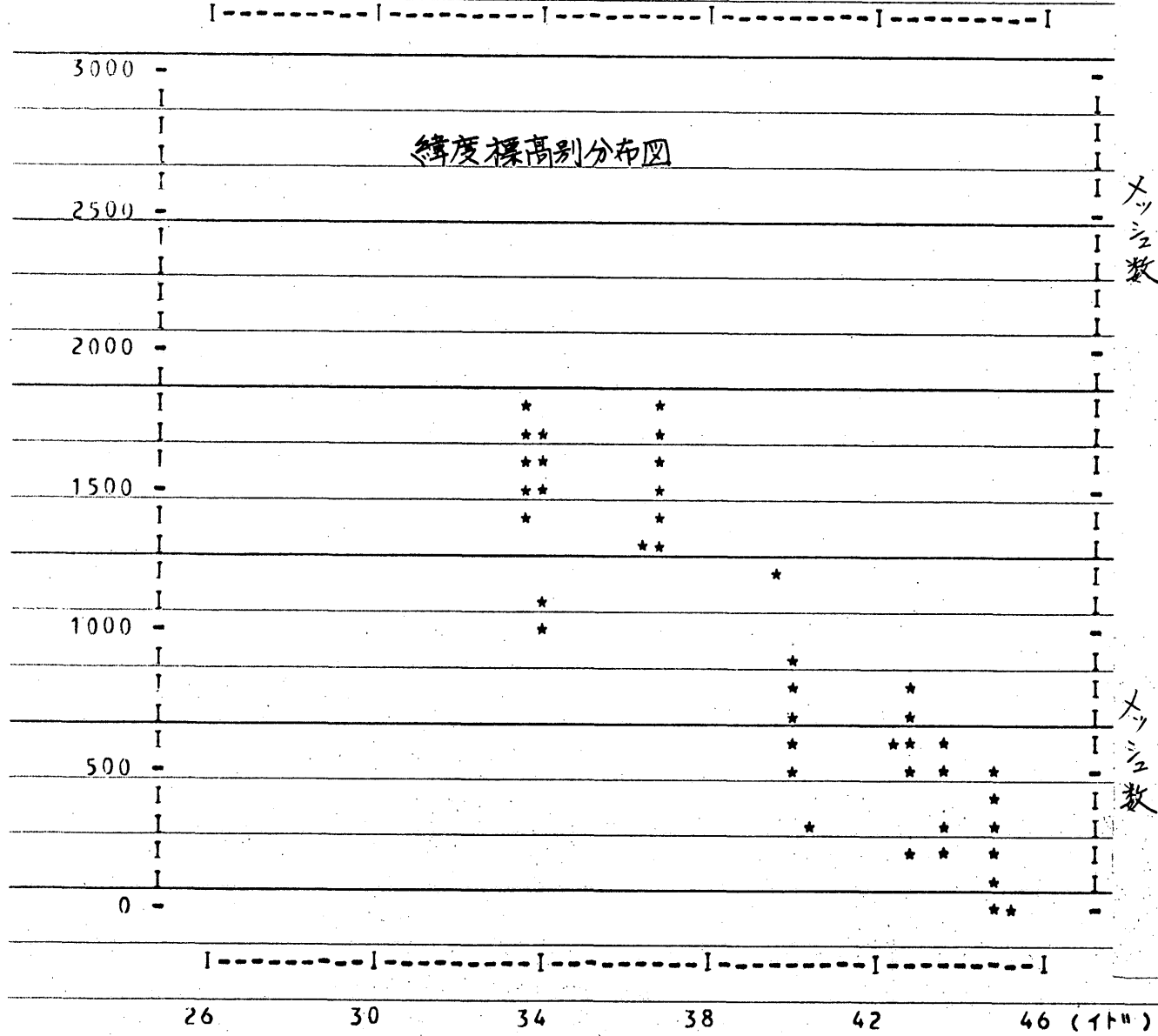
N データ欠



コード	群落名	メッシュ数	出現県
30100A	ササ群落	100	北海道、青森、岩手、福島、群馬、奈良、徳島
30100B	エゾマツ二次群落	-	山形
30101C	エゾマツ二次群落	2	栃木、福井
30102D	クマヤササ群落	1	栃木
	計	103	

\* 1県で2群落以上出現する場合、メッシュ数のもとより各群落

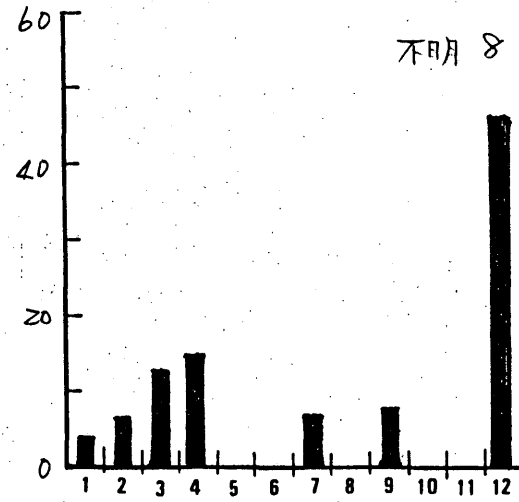
緯度標高別分布図



メッシュ数

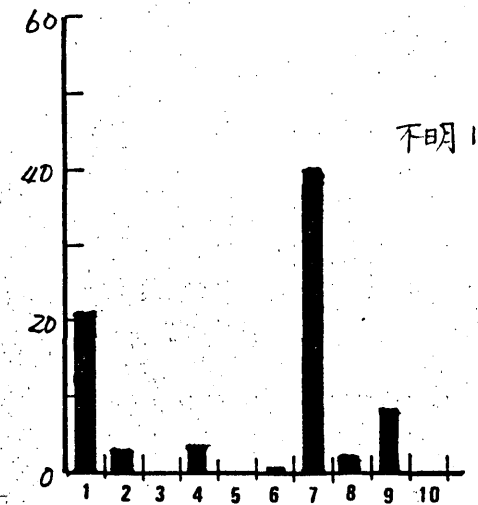
メッシュ数

土壌区分別頻度図



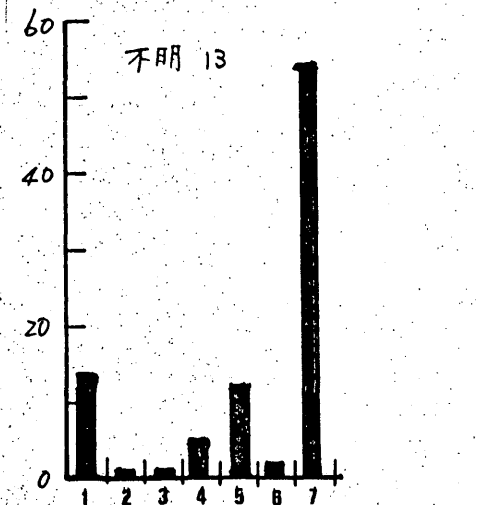
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



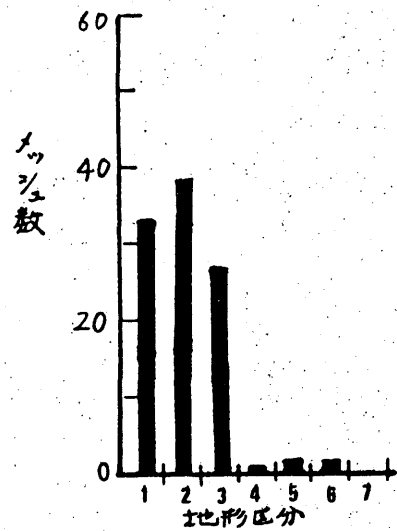
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 緩丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂州

メッシュ数

伐跡群落

<相観> 落葉広葉樹の低木林または草原。

<生育地> 亜高山帯の森林の伐採跡地にみられる。伐採直後は著しく富養になるが、数年後には表土が流亡し乾性、貧養になる。

<種組成> 伐採跡地に形成される草原、低木林は、伐採後の経過年数や立地の環境条件により種組成はさまざまである。一般には、フナラス域中部以上のものに類似しているが、森林復元には一層長い時間を要する。後線部や山頂部などの風衝の激しいところではササ群落となり持続することが多い。

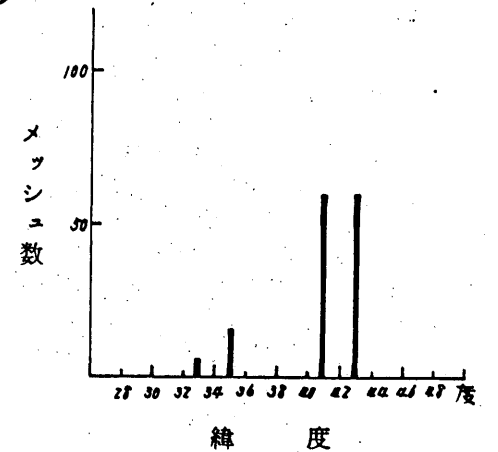
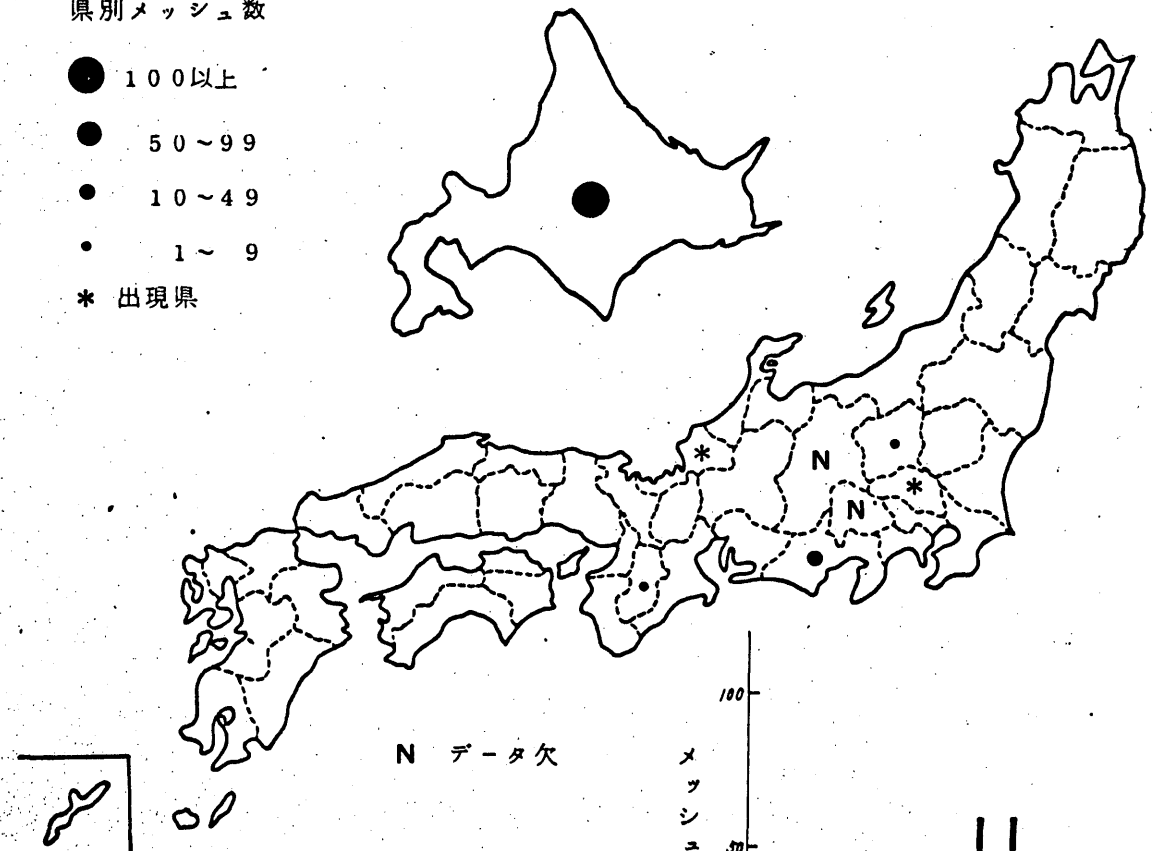
<群落の特徴> 亜高山帯の森林伐採跡地にみられる低木林または草原である。

\* 30300 伐跡群落

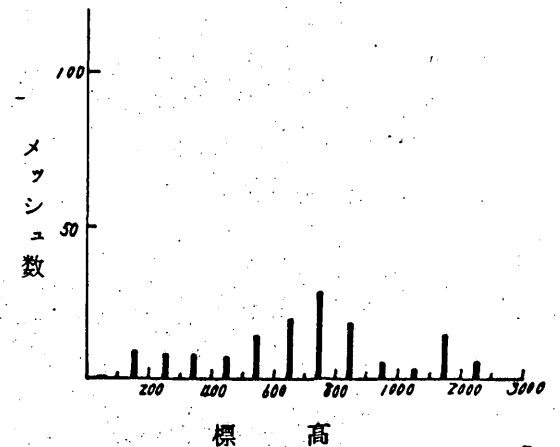
県別メッシュ数

- 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9

\* 出現県



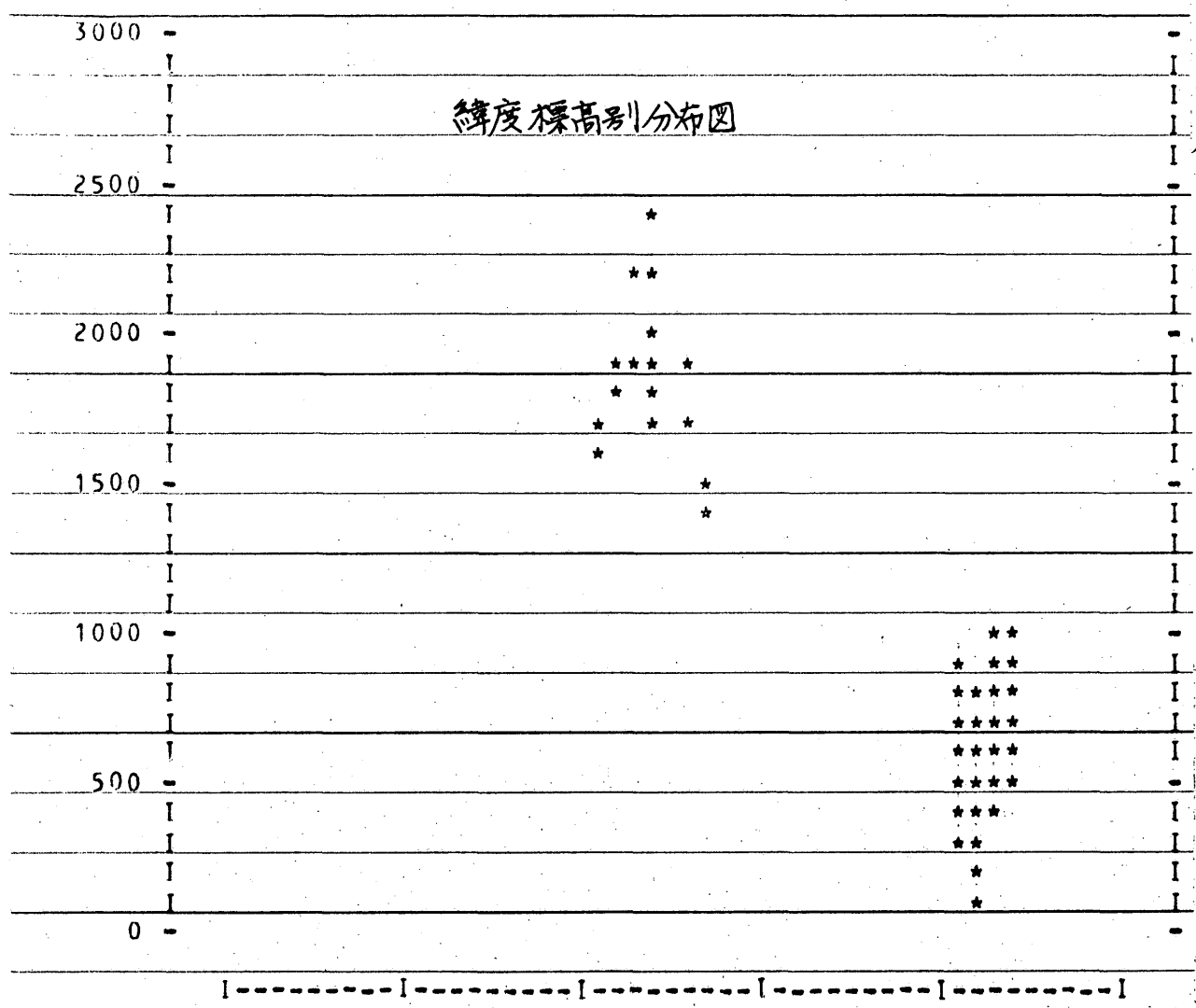
コード	群落名	メッシュ数	出現県
30300A	伐跡群落	136	北海道、栃木、埼玉、静岡
30300B	伐採跡群落	1	福井
30300C	伐採跡地に成立した二次林	5	北海道
	計	141	



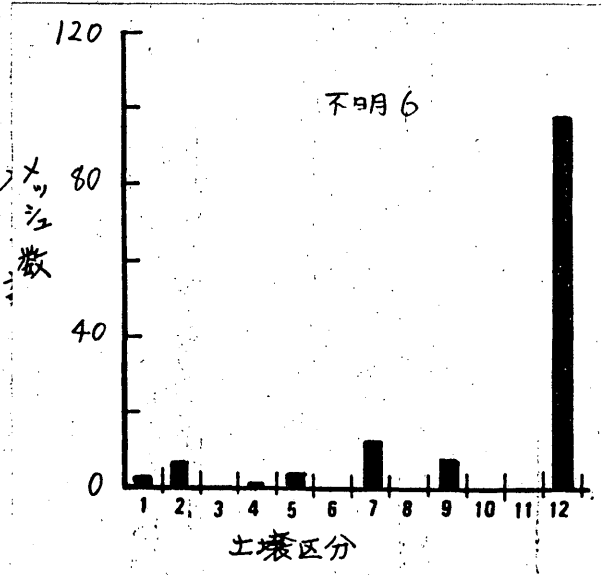
\* 1県で2群落以上出現する場合、メッシュ数のもととして1群落



緯度標高別分布図

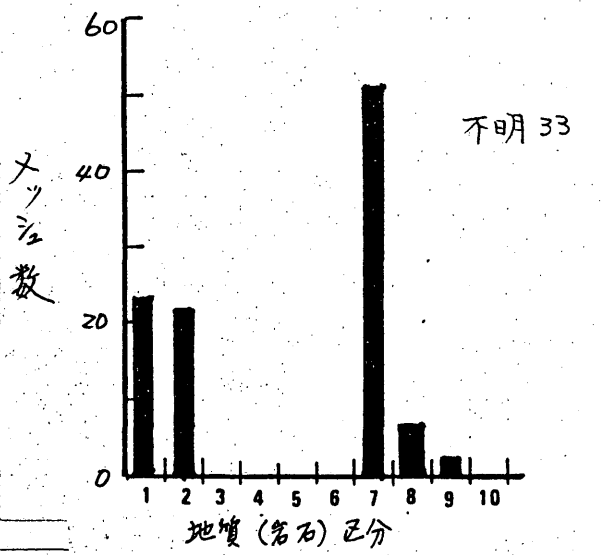


土壌区分別頻度図



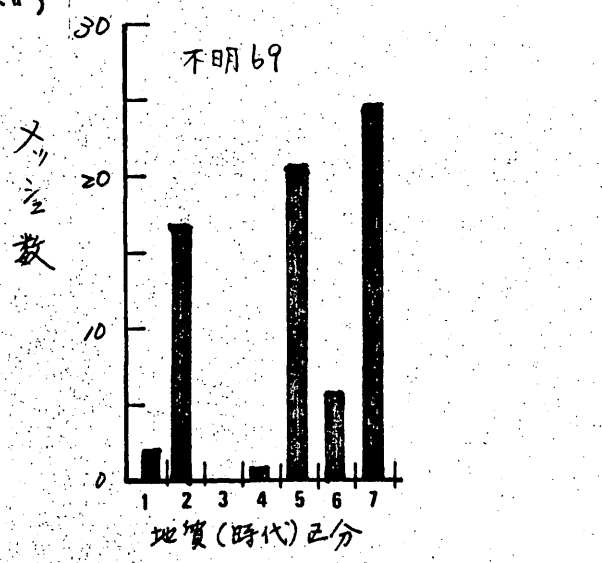
- 1 岩屑土
  - 2 未熟土
  - 3 黒ボク土
  - 4 乾性褐色森林土
  - 5 褐色森林土
  - 6 湿性褐色森林土
  - 7 ポドソル
  - 8 赤黄色土
  - 9 低地土
  - 10 グライ土
  - 11 泥炭土
  - 12 その他
- (凡例改訂が行われ  
たところ。北海道の  
4, 5, 6を合して  
与えられる。)

地質(岩石)区分別頻度図



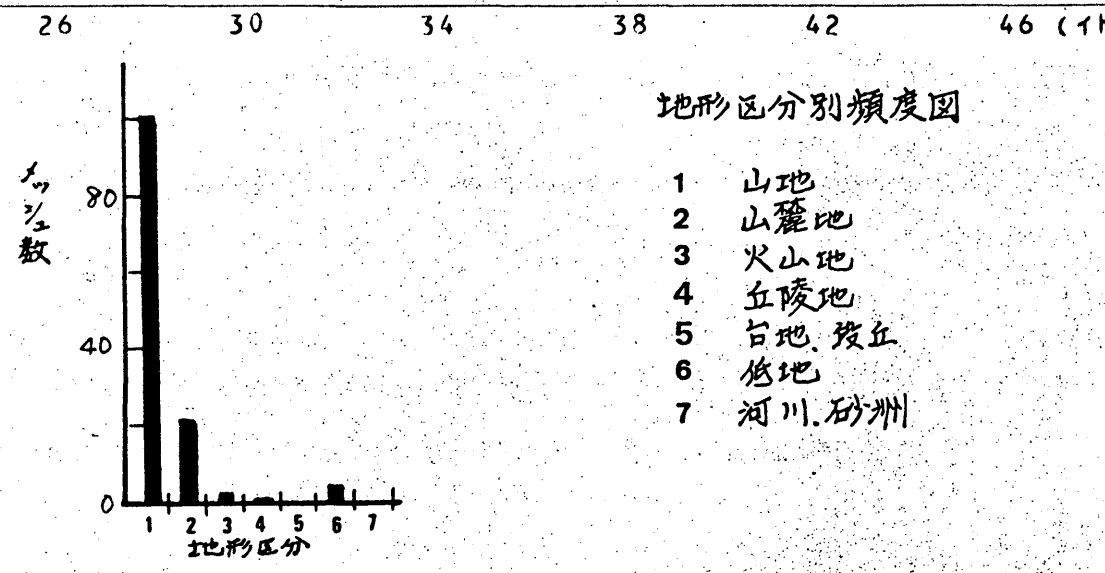
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 残丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂洲

〈相観〉夏緑広葉樹の高木林、亜高木林。群落高は20~25m程度が多い。

〈生育地〉日本海側多雪地帯に広く分布している。尾根から山腹上部、山腹下部、河岸段丘にいたる。弱乾性から適潤な立地に普遍的にみられる。

〈種組成〉高木層にはブナが優占し、亜高木層にはイタヤカエデ、ミズナラ、ハウチワカエデ、ホオノキなどが混生している。低木層にはエゾユズリハ、ハイイマツゲ、ハイイマガヤ、ヒメアオキ、ヒメモチなど常緑匍匐低木や、チシマザサ、フマイザサ、チマキザサなどのササ類が特徴的にみられ、適潤地ではオオバクロモジ、オオカメノキ、乾性ではマルバマンサク、サラサドウダン、ムラサキヤシオ、ホツツジなどの落葉広葉樹を混えている。草本層にはヤマソテツ、シノブカマ、ツルアリドウシ、オクノカンスゲなど。常在度が高く、乾性では、オオイワカガミ、シシガシラ、イフウチワなどが生育している。日本海側のブナ林は、種の分布が日本海側にほぼ限定されている前述の常緑匍匐低木やササ類、ハウチワカエデ、タムシバ、オオバクロモジ、ヤマモミジ、マルバマンサクなどを標徴種、区分種として、チシマザサープナ群団にまとめられている。

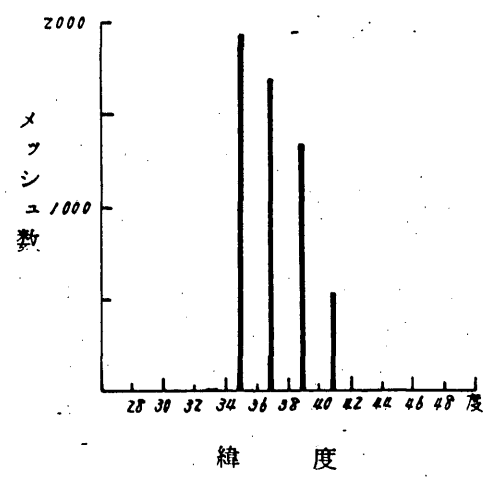
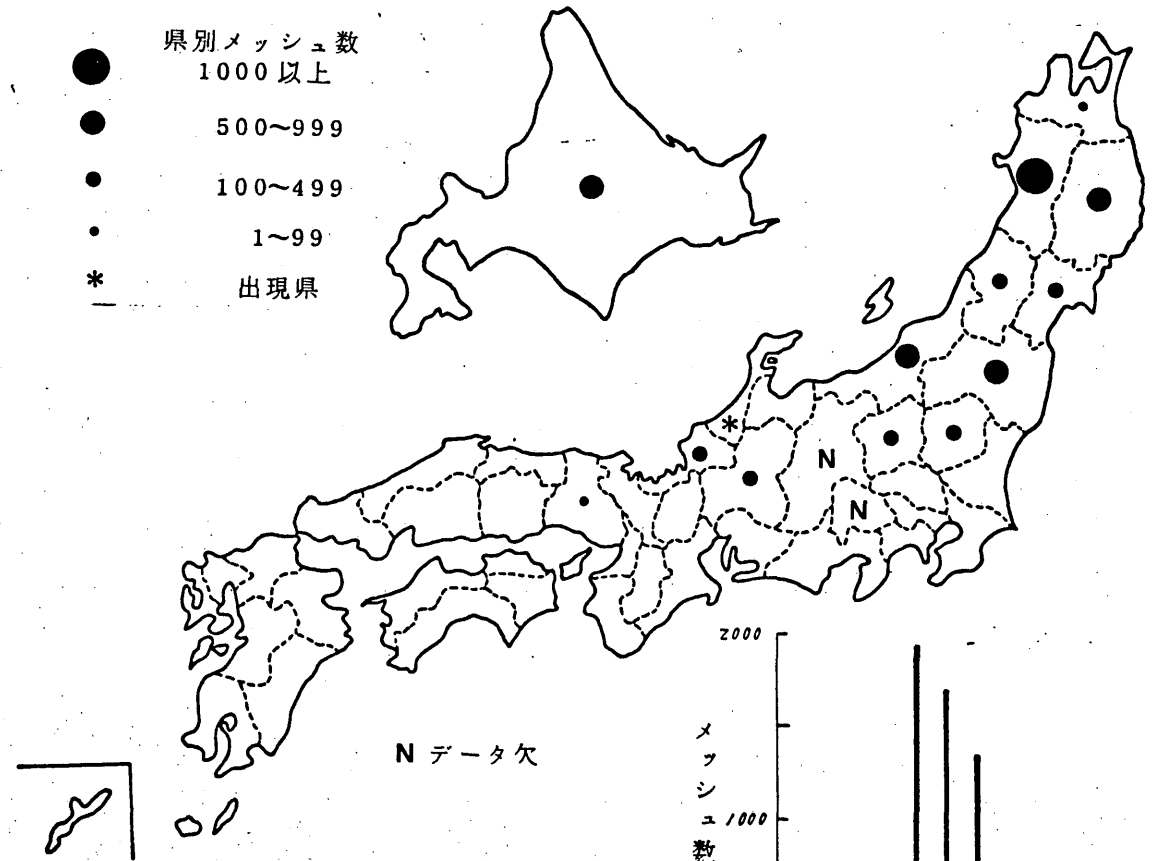
〈群落の特徴〉日本海側多雪地帯に分布するブナの優占する落葉広葉樹高木林である。日本、代表的な極相林である。

〈分布〉北海道黒松内低地帯以南西、兵庫県までの日本海側山地帯を中心に分布している。

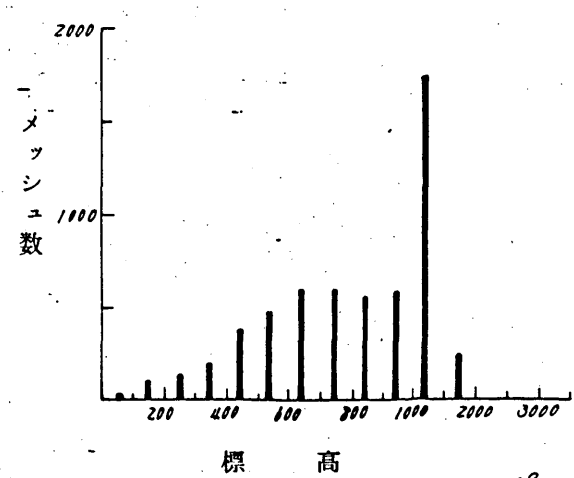
〈その他〉種組成的には後述するヒメアオキープナ群集、クロモジープナ群集、マルバマンサクープナ群集などに細分され、太平洋側、スズタケープナ群団に対応している。近年急激に伐採が進んでいるため、ある程度、面積の林分を地域面積または地形区分に充てて系統的に保護することが必要である。

IV. ブナクラス域自然植生  
\*40100 チシマザサープナ群団

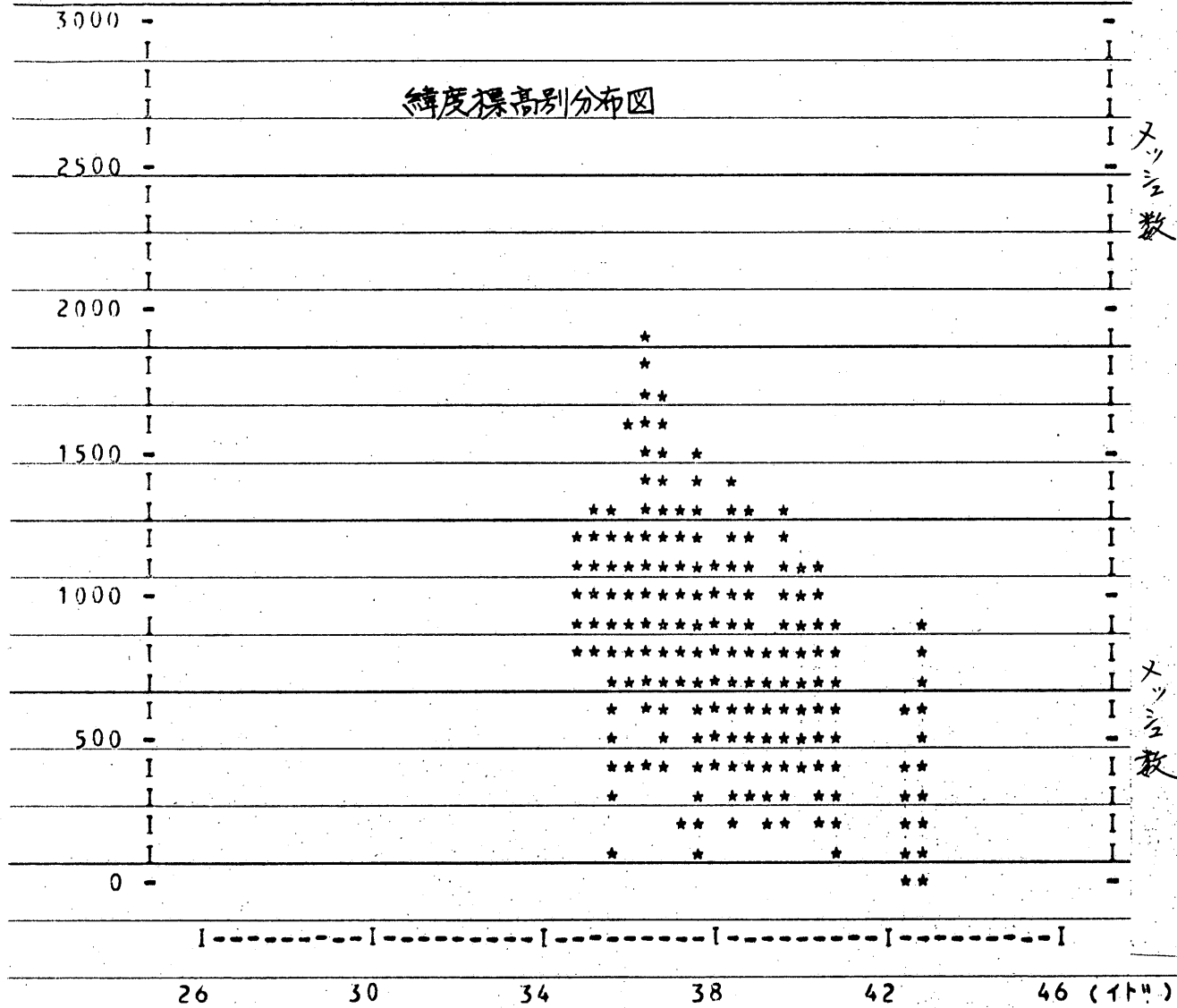
- 1000以上
- 500~999
- 100~499
- 1~99
- \* 出現県



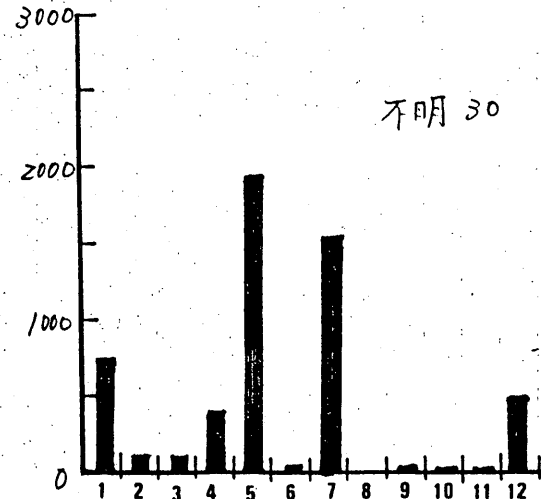
コード	群落名	メッシュ数	出現県
40100A	チシマザサ	5144	北海道, 青森, 岩手, 宮城, 秋田, 福島, 群馬, 新潟, 石川, 福井, 岐阜, 兵庫
40100B	ブナ-チシマザサ群落	161	山形
40100C	ブナ-チシマザサ群集	161	栃木
	計	5466	



緯度標高別分布図

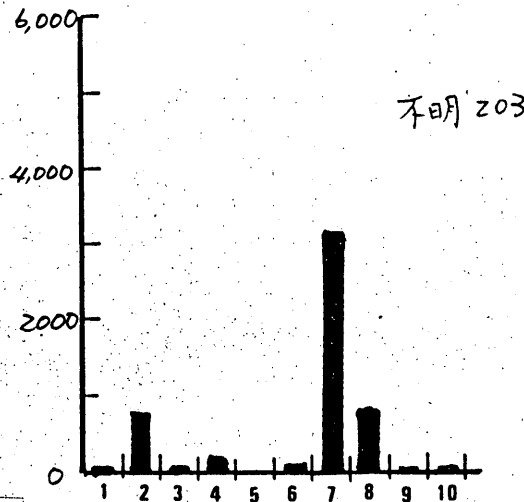


土壌区分別頻度図



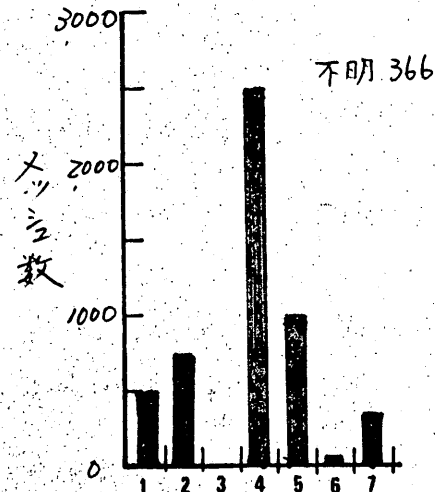
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



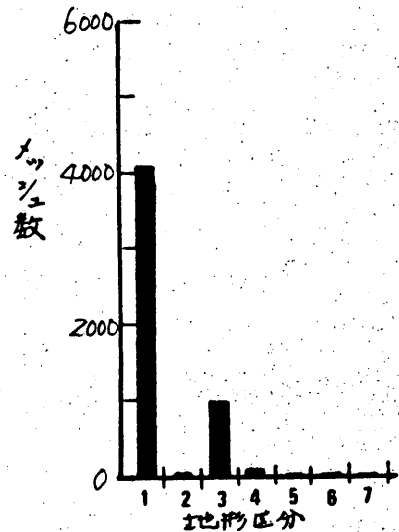
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、緩丘
- 6 低地
- 7 河川、砂州

ヒメアオキ-ブナ群集 *Aucubo-Fagetum crenatae*

<相観> 落葉広葉樹の高木林, 亜高木林.

<生育地> 日本海側多雪地帯(チシマササ-ブナ群団域)の斜面中部から下部にかけて分布している。緩傾斜の安定した地形で、土壌が発達した通潤地にみられる。

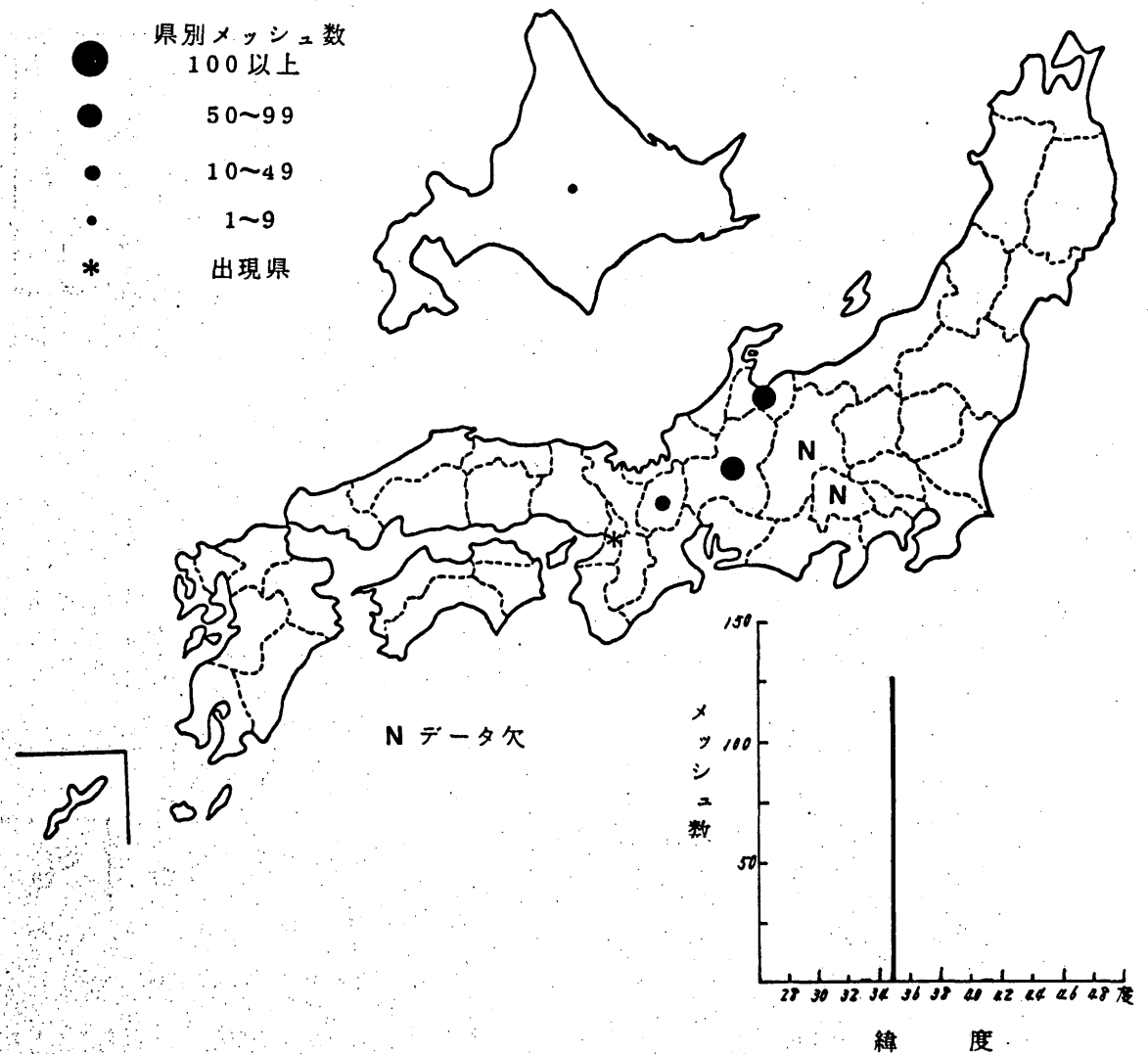
<種組成> 高木層にはブナが優占し, 亜高木層にはハウチワカエデ, ミスナラ, イタヤカエデ, ハリギリなどが混生している。低木層には常緑旬間低木のヒメアオキが特徴的にみられるが, チシマササ, フマイササなどのササ類や, オオカメノキ, ミヤマカマズミ, ヤマモミジ, ミネカエデなどの落葉広葉樹も混生している。草本層にはミヤマイトケシ, ソタワルシ, イワガラミなどが高常在度で生育し, その他オクノカンスゲ, ユキガサ, ヒメカンスゲなどが生育している。この群落は, ブナ, ヒメアオキ, ハイイヌガヤ, ユキフバキなどを特徴種, 区分別として, ヒメアオキ-ブナ群集にまとめられている。

<群落の特徴> 日本海側多雪地帯に分布するブナの優占する落葉広葉樹林(チシマササ-ブナ群団)のうち, 斜面中部から下部にかけての通潤地に発達する群落を区別したものである。低木層にヒメアオキが特徴的に出現している。

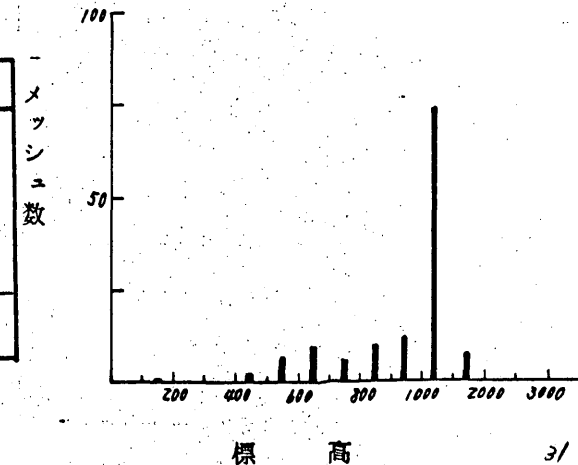
<分布> チシマササ-ブナ群団と同様。県によればチシマササ-ブナ群団としてまとめて図示されている。

\*40101 ヒメアオキ-ブナ群集

- 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9
- \* 出現県



コード	群 落 名	メッシュ数	出 現 県
40101	ヒメアオキ-ブナ群集	129	北海道, 富山 岐阜, 滋賀 大阪
	計	129	

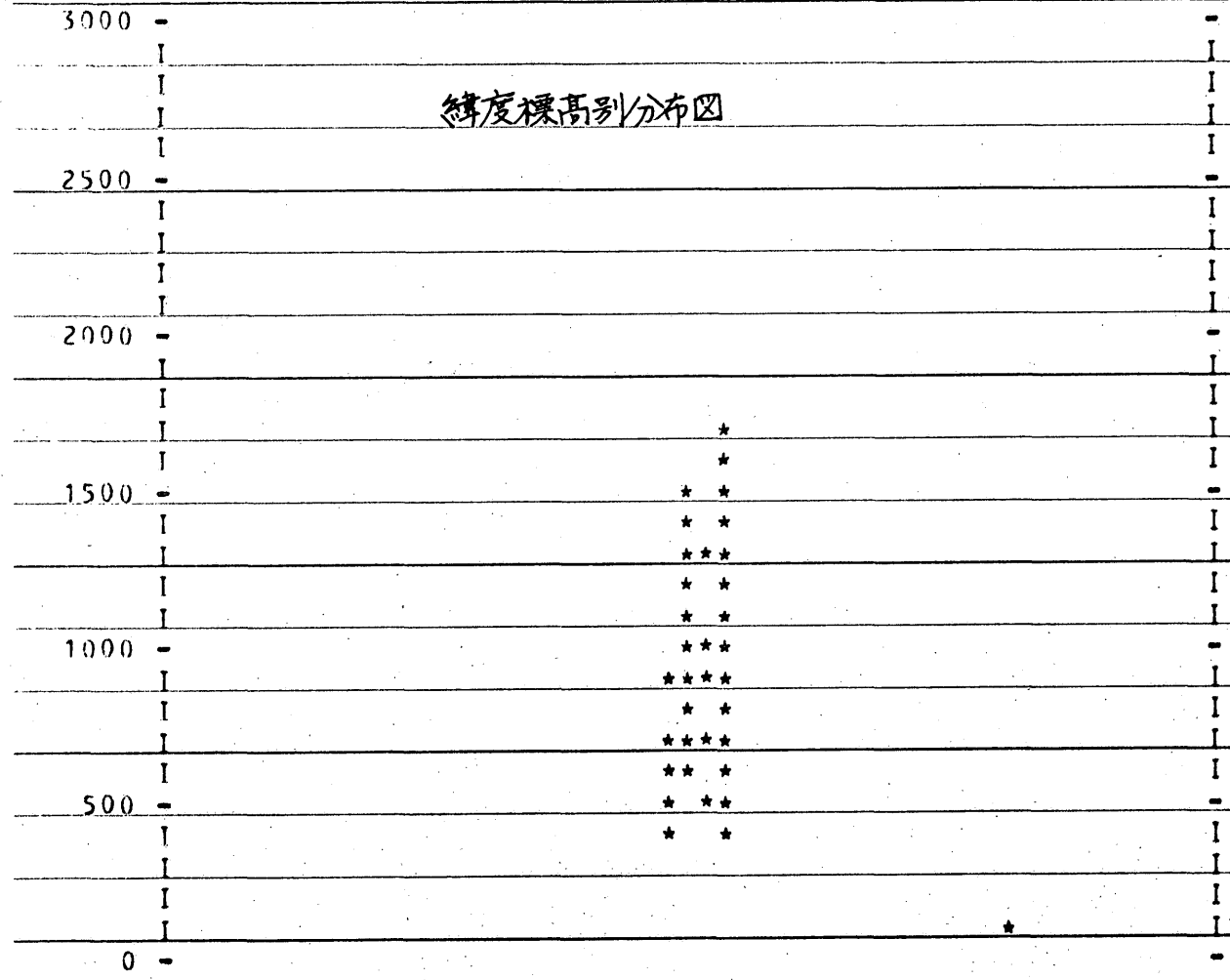


(ヒコウ)

### ヒメアキ - ブナ群集

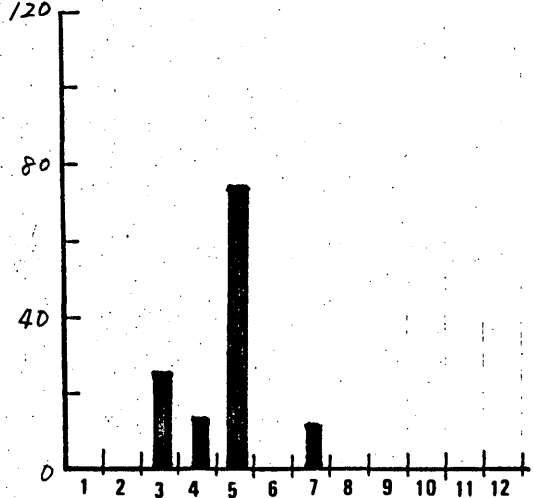
( \*40101 )

#### 緯度標高別分布図



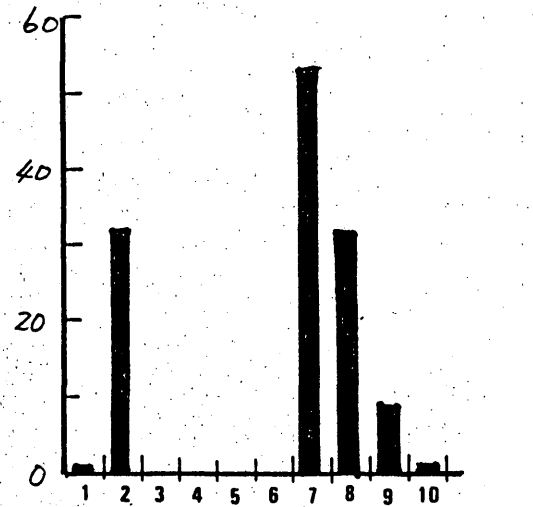
メッシュ数

#### 土壌区分別頻度図



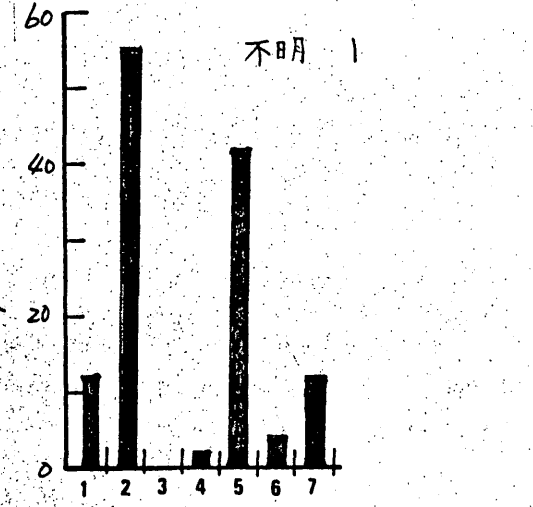
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホトソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

#### 地質(岩石)区分別頻度図



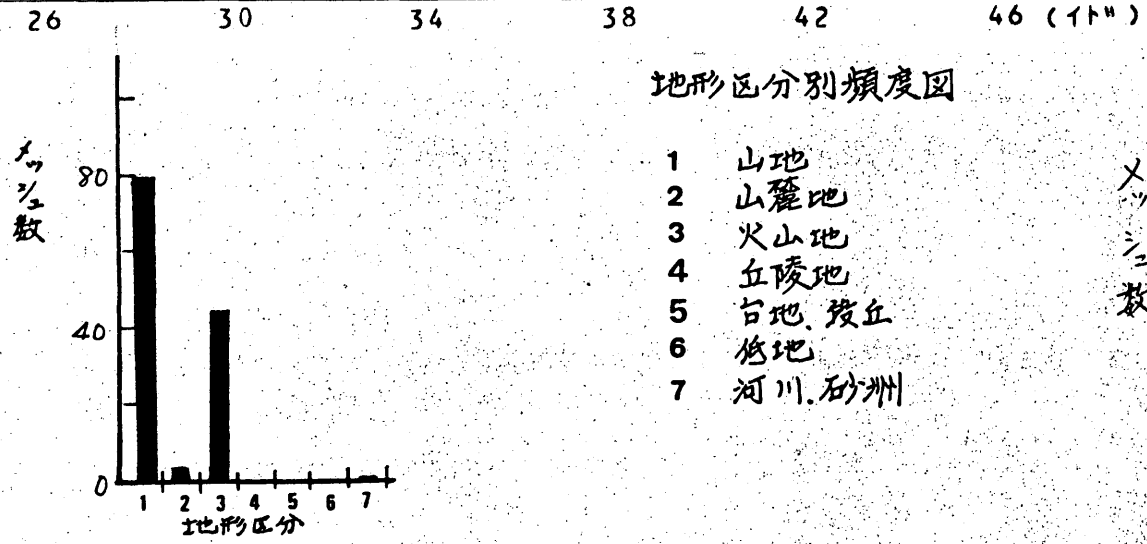
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

#### 地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

#### 地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 緩丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂州

フロモジ-ブナ群集

Lindero umbellatae-Fagetum crenatae

〈相観〉落葉広葉樹の高木林。

〈生育地〉日本海側多雪気候の影響がみ取り顕著でない近畿〜中国地方の日本海側山地に分布している。土壌のよく発達した斜面を中心に広い生育域を占めている。

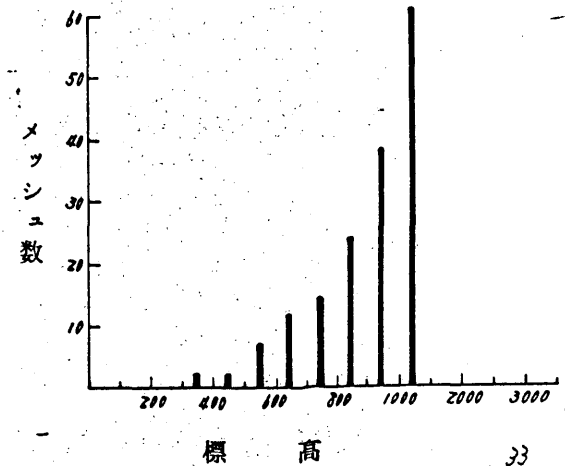
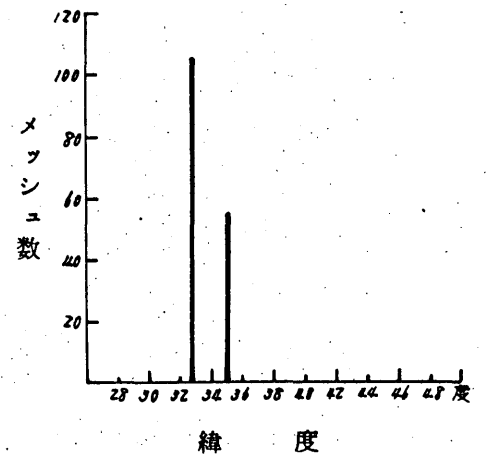
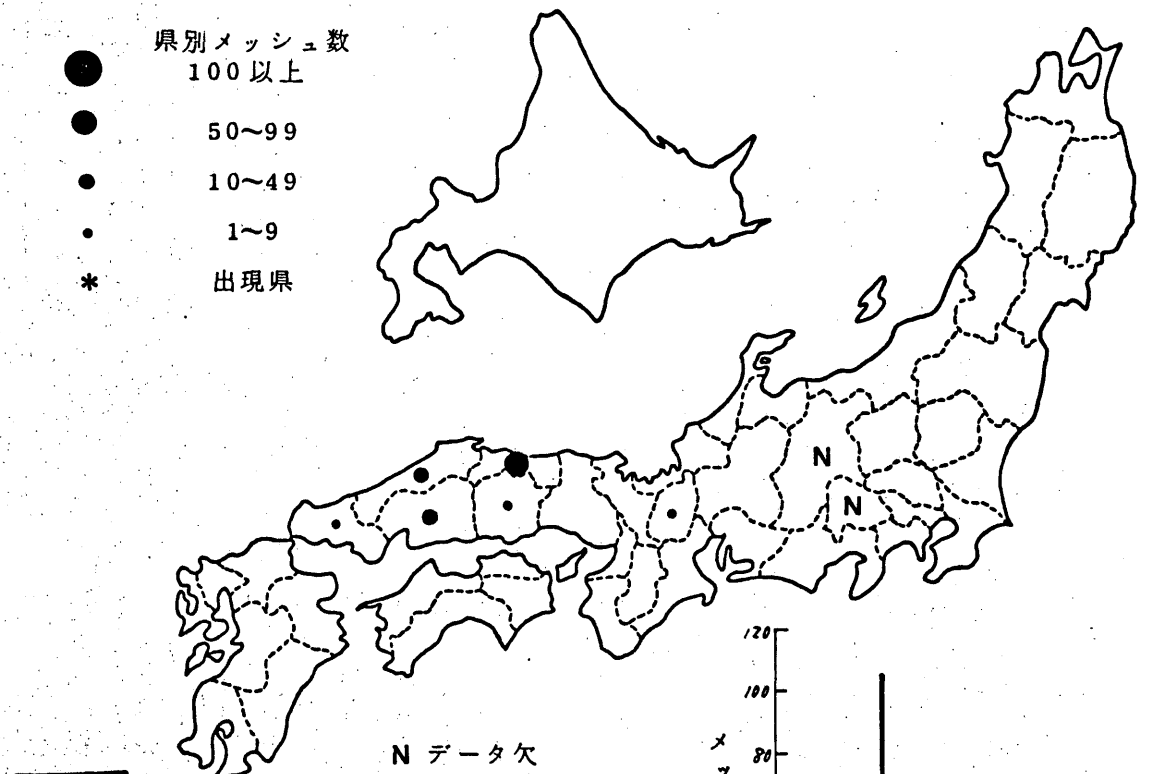
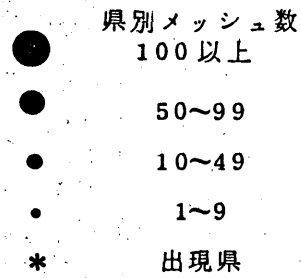
〈種組成〉高木層にはブナが優占し、ミスナラ、コハウケワカエデ、イタヤカエデ、オオノキなどの落葉広葉樹が混生している。亜高木層にはリョウブ、アズキブシ、オオノキヤメイゲツ、コシアブラ、ナツカマドなども生育している。低木層には島根柴、広島柴、山口柴ではフロモジが優占することが多く、兵庫県、鳥取県、岡山県ではチシマササが優占することが多い。その他、タンブサワフタギ、オオカメノキ、コミネカエデなどの落葉広葉樹やチャボガヤ、エゾユズリハ、ヒメモク、ハイイヌガヤなどの常緑匍匐樹が混生している。草本層は、やや疎開した林分ではチシマササなどの混生のためあまり発達せず、う閉した林分ではミヤマカンスト、オノカンストなどのスゲ属や、ミヤマイタケシタ、ヤマソテツなどのシタ植物が優占している。乾性地ではオオイワカガミがしばしばみられる。この群落は、日本海側のチシマササ-ブナ群団の標徴種であるハウケワカエデ、ヤマソテツなどがみられ、一方太平洋側のスタケ-ブナ群団の標徴種であるタンブサワフタギ、イヌフゲなどがみられることから、両群団の移行部にあたると思われる。

〈群落の標徴〉近畿〜中国地方の日本海側山地に分布するブナの優占する落葉広葉樹林である。低木層にフロモジまたはチシマササが優占している。日本海側チシマササ-ブナ群団の構成要素を多く含むものの、太平洋側スタケ-ブナ群団の構成要素も含み、両群団の移行部的な群落である。

〈分布〉滋賀県比叡山地の標高1000〜1200mから、中国山地の標高700〜1400mまでに点在している。

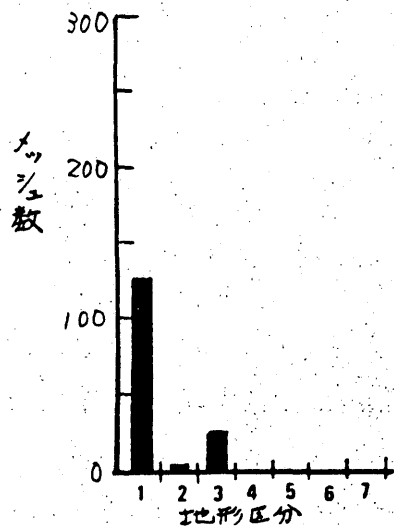
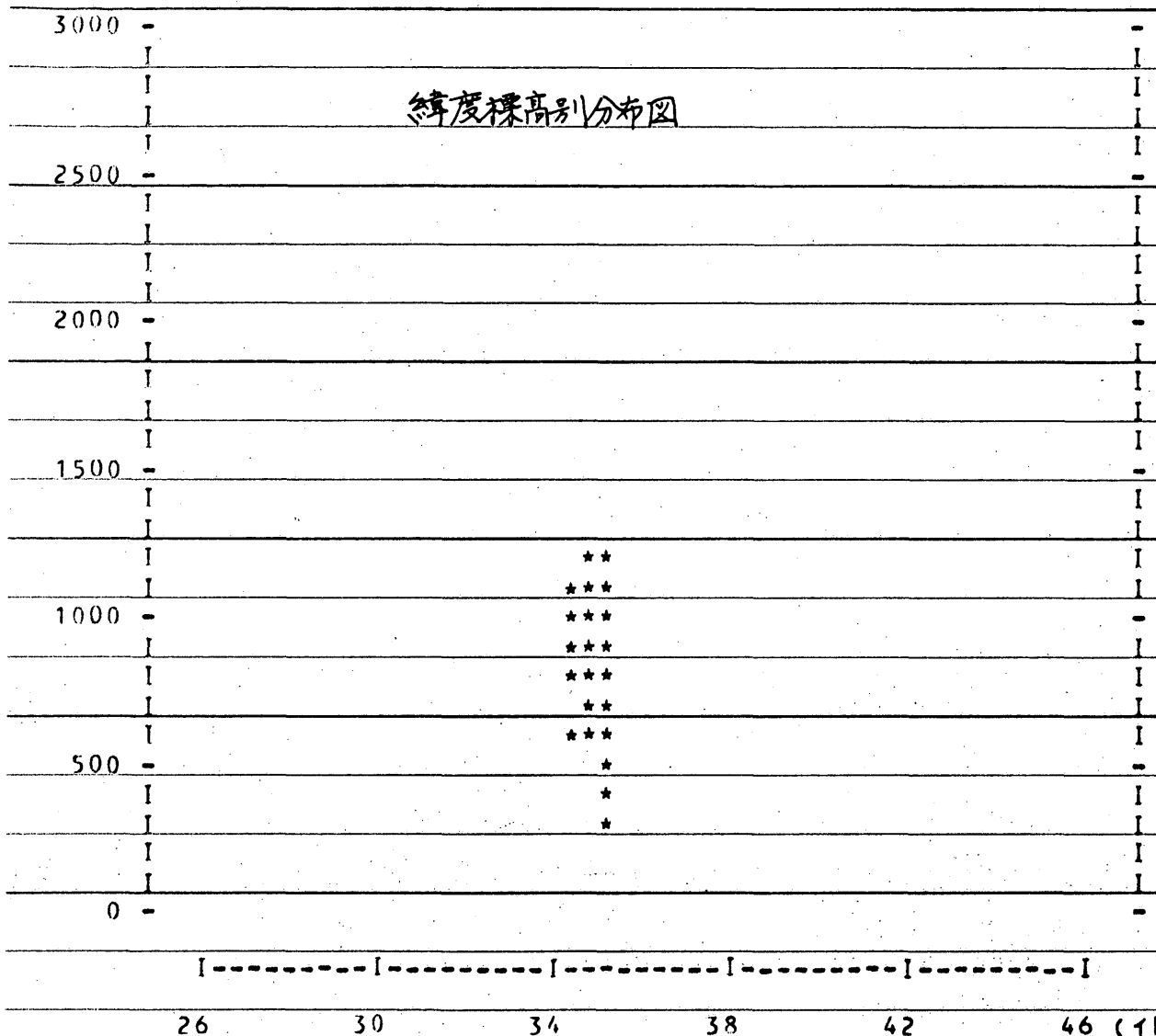
〈その他〉スギなどの植林適地で植林地化が進み、著しく減少している。伐採や道路建設には慎重を期する。

\*40102 クロモジ-ブナ群集



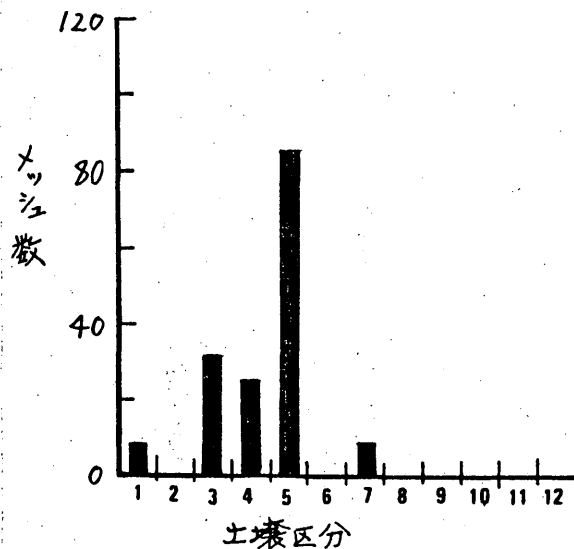
コード	群落名	メッシュ数	出現県
40102	フロモジ-ブナ群集	160	滋賀, 鳥取, 島根, 岡山, 広島, 山口
	計	160	

緯度標高別分布図



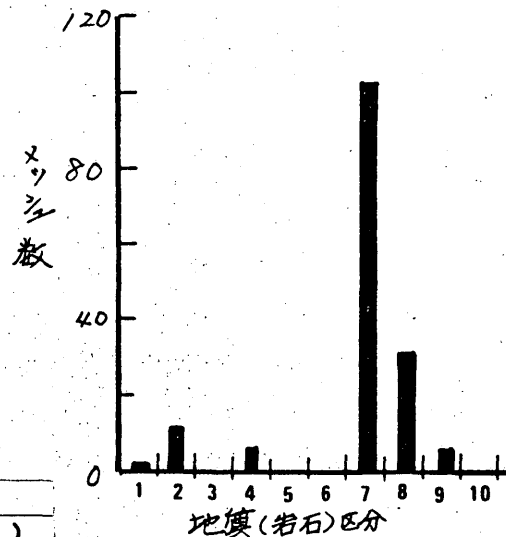
地形区分別頻度図

- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地・緩丘
- 6 低地
- 7 河川・砂州



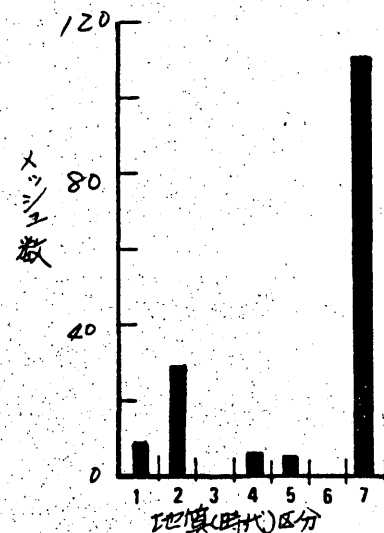
土壌区分別頻度図

- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他



地質(岩石)区分別頻度図

- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの



地質(時代)区分別頻度図

- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

マルバマンサク-ブナ群集 Hamamelo-Fagetum chenatae

〈相観〉落葉広葉樹の高木林，亜高木林。群落高は風衝地では6～7mと低く，普通20m程度に達する。

〈生育地〉日本海側多雪地帯（チシマササ-ブナ群団域）の斜面上部に分布している。比較的急傾斜の凸型斜面，尾根筋，風当りの強いところなど，土壌の浅く貧瘠な乾性地にみられる。

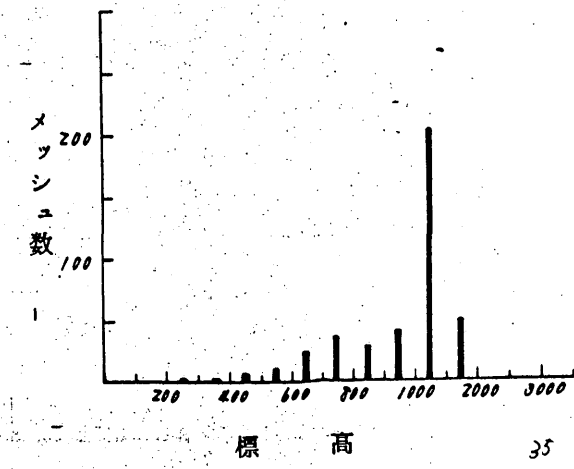
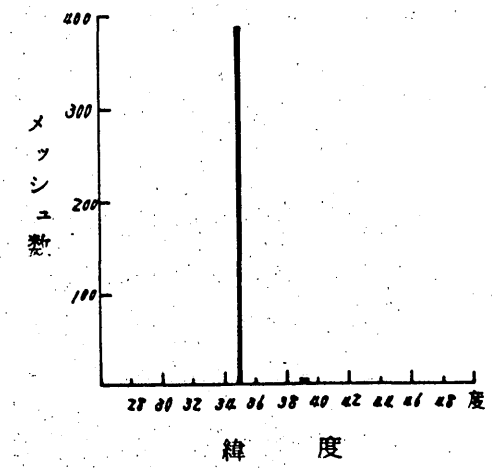
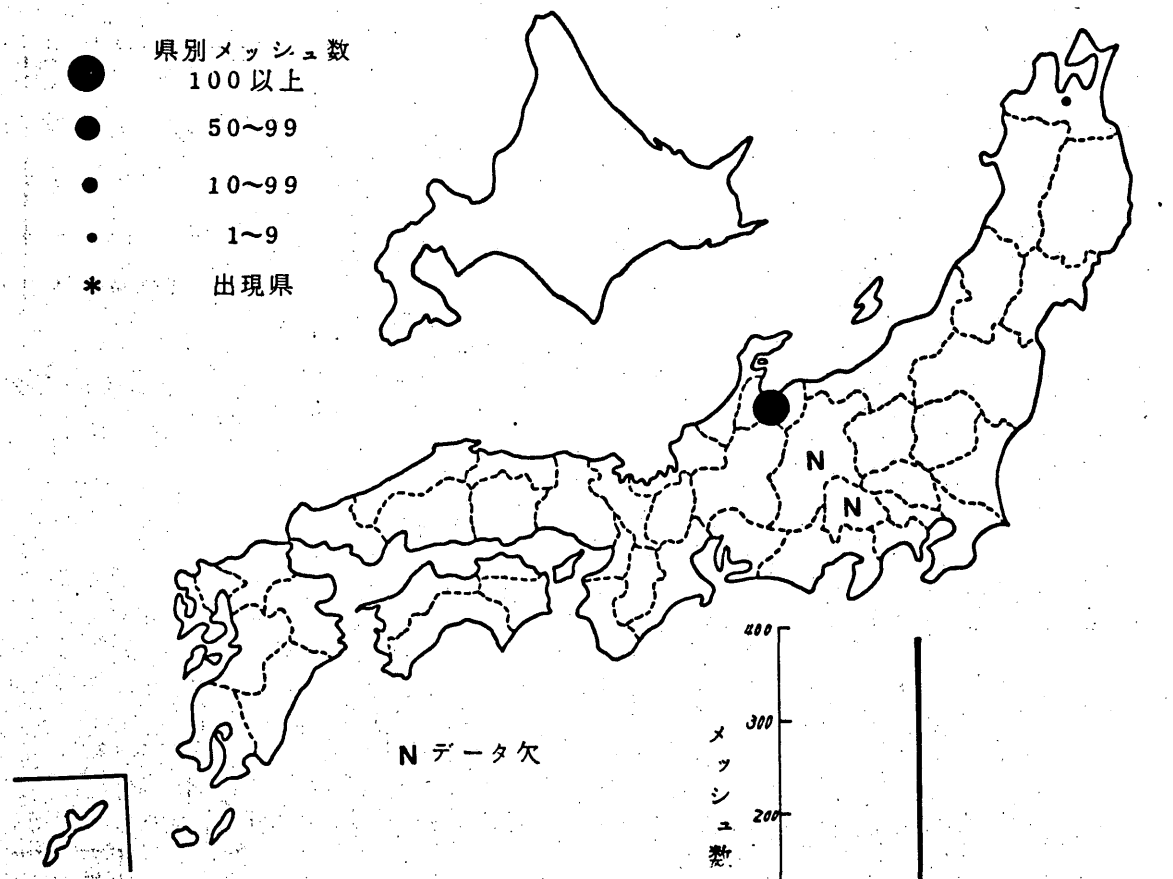
〈種組成〉高木層にはブナが優占し，亜高木層にはミズナラ，フムシバ，コミネカエデなどの落葉広葉樹が混生している。低木層にはマルバマンサクその他，ムラサキヤシオ，フヨウラクフワジ，ホフジなどのフワジ科植物が特徴的にみられ，チシマササ，エゾユズリハなども生育している。草本層にはイワウケワ，オオイワカガミ，シシカシラ，ツバメオモトなどの常緑草本植物が多くみられる。この群落は，マルバマンサク，アケシバ，ムラサキヤシオフワジ，ナカマド，ツクバネソウ，マイヅルソウなどを標徴種，区分種としてマルバマンサク-ブナ群集に区別されている。

〈群落の特徴〉日本海側多雪地帯に分布するブナの優占する落葉広葉樹林（チシマササ-ブナ群団）のうち，斜面上部から稜線部にかけての乾性地に発達する群落を区別したものである。低木層にマルバマンサクやムラサキヤシオ，ホフジなどのフワジ科植物が特徴的に出現している。

〈分布〉チシマササ-ブナ群団と同様，県によってはチシマササ-ブナ群団として区別して図示されている。

\*40103 マルバマンサク-ブナ群集

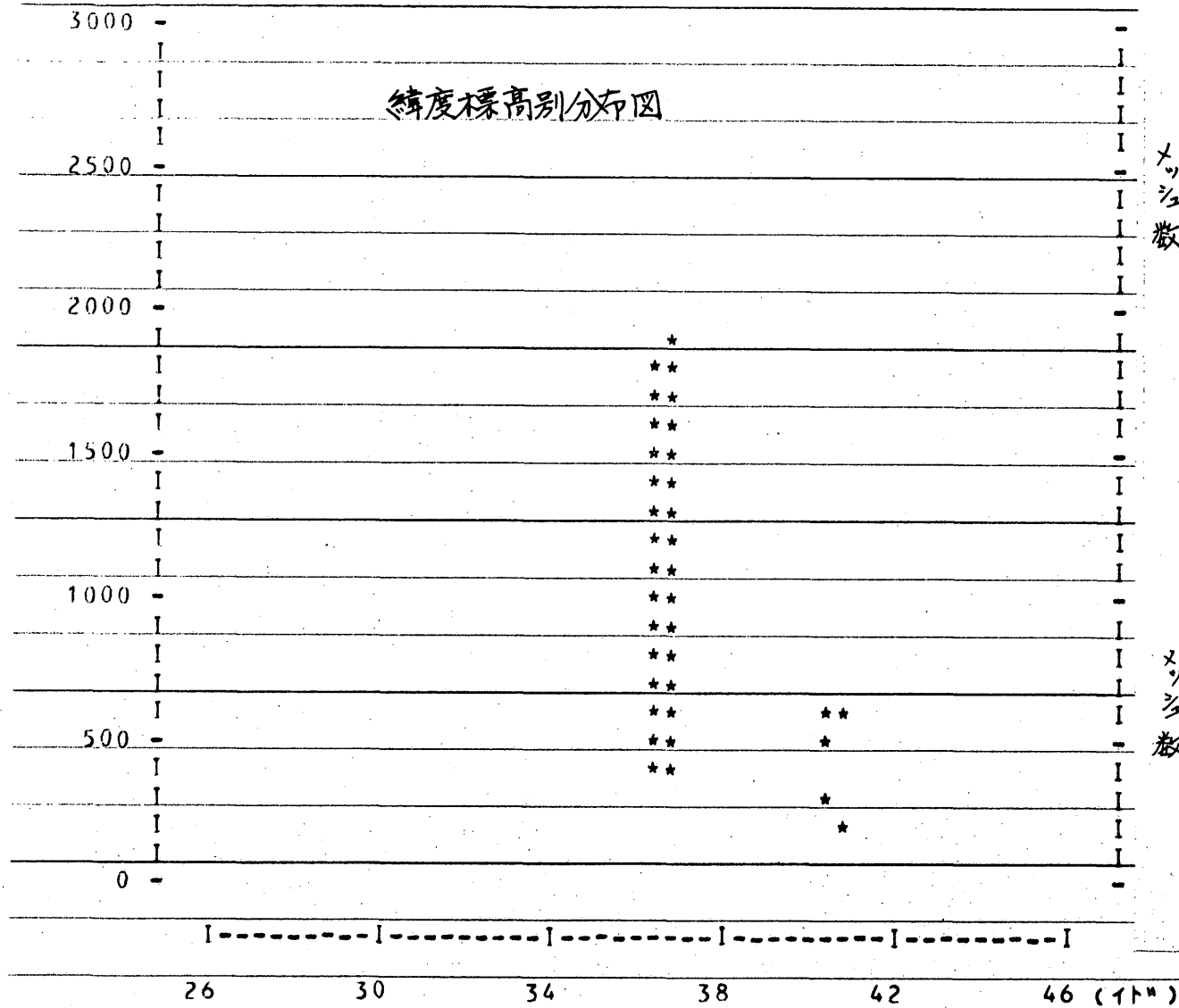
- 県別メッシュ数 100以上
- 50～99
- 10～99
- 1～9
- \* 出現県



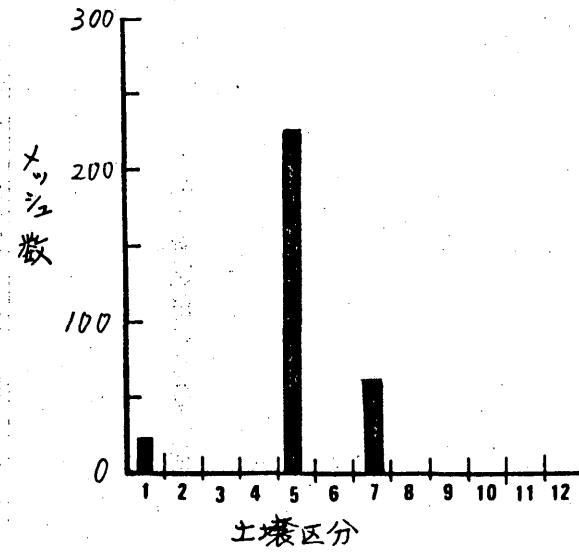
コード	群落名	メッシュ数	出現県
40103	マルバマンサク-ブナ群集	396	富山
	計	396	



緯度標高別分布図

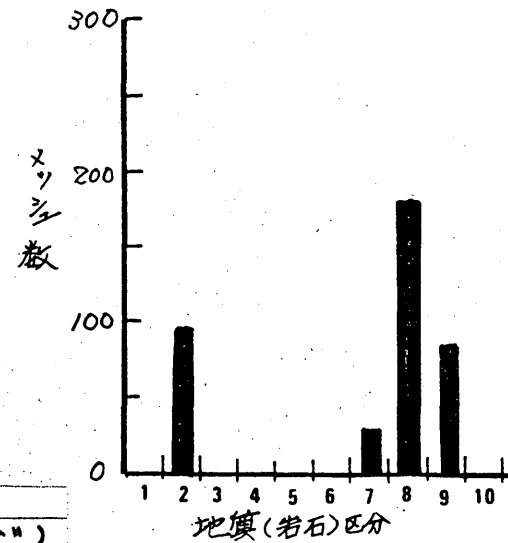


土壌区分別頻度図



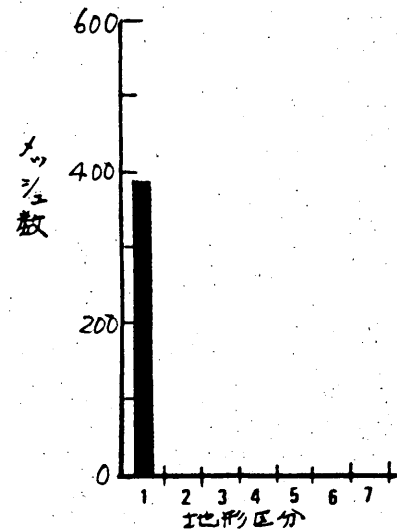
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホトソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



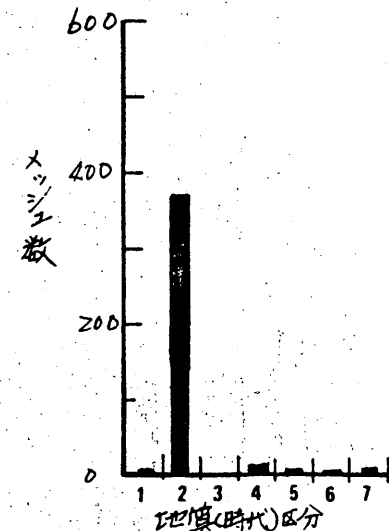
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、緩丘
- 6 低地
- 7 河川、砂州

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

〈相観〉落葉広葉樹の高木林、亜高木林。群落高は時に30mに達する。

〈生育地〉太平洋側の冷温帯に分布している。山腹斜面の通潤地によく発達するが、山頂や稜線部の強い風衝地や、花崗岩地帯の未熟な土壌条件下にもみられる。地質的には、第三紀層より古い地層に限られ、火山灰土壌にはみられない。

〈種組成〉高木層にはブナが優占し、ミズナラ、イヌブナ、イヌシデなどが混生している。亜高木層にはナツツバキ、ヒメシヤラ、ヨグソミネバリなどがみられ、多くの落葉広葉樹が生育している。低木層には一般にスズタケまたはミヤコザサなどのササ類が優占している。草本層にはチゴユリ、ヘビノネゴザ、タガネソウ、イワガラミ、ゴトウヅル、コカンスゲなどが生育している。太平洋側のブナ林は種の分布が太平洋側にはほぼ限定されているスズタケ、タンナサワフタギ、クロモジ、コハウチワカエデなどと特徴種、区分種としてスズタケブナ群団にまとめられている。

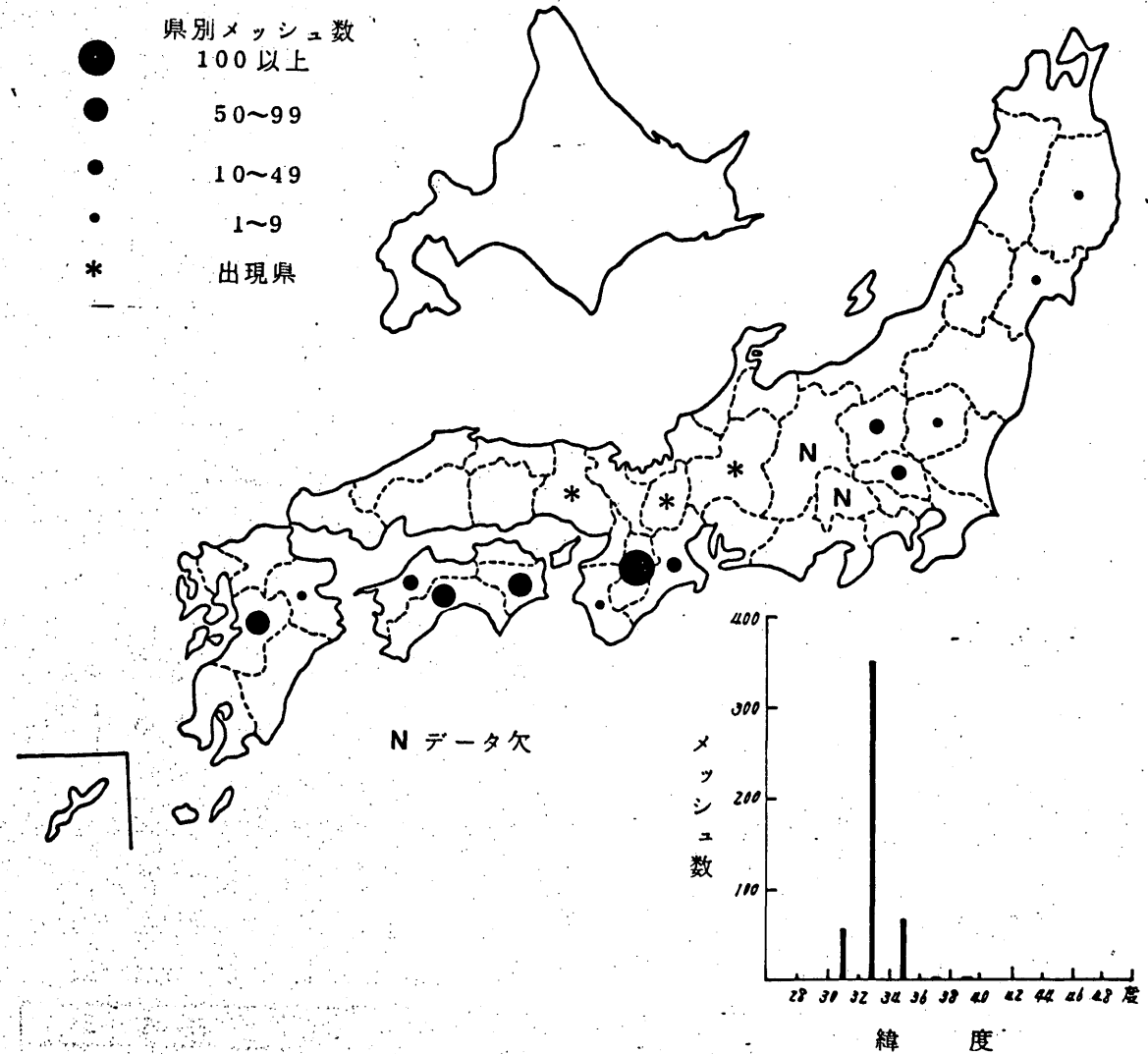
〈群落の特徴〉太平洋側山地に分布するブナの優占する落葉広葉樹林である。林床にスズタケまたはミヤコザサが特徴的にみられる。

〈分布〉本州。岩手県南部から兵庫県六甲山までの太平洋側山地、四国山地に断続的に分布し、九州大分県にもみられる。

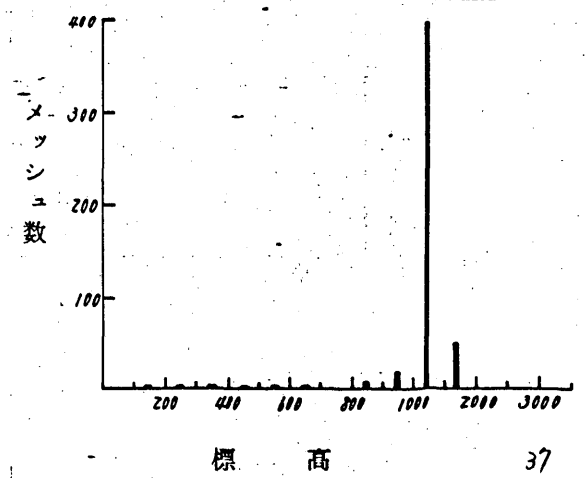
〈その他〉種組成的には後述するヤマボウシブナ群集やシラキブナ群集なども同群団に含まれる。日本海側のチマガサブナ群団に対峙している。近年伐採により次第に減少している。で、少なくとも代表的な林分を可能なかぎり広い面積で保護することが必要であろう。

\*40200 スズタケブナ群団

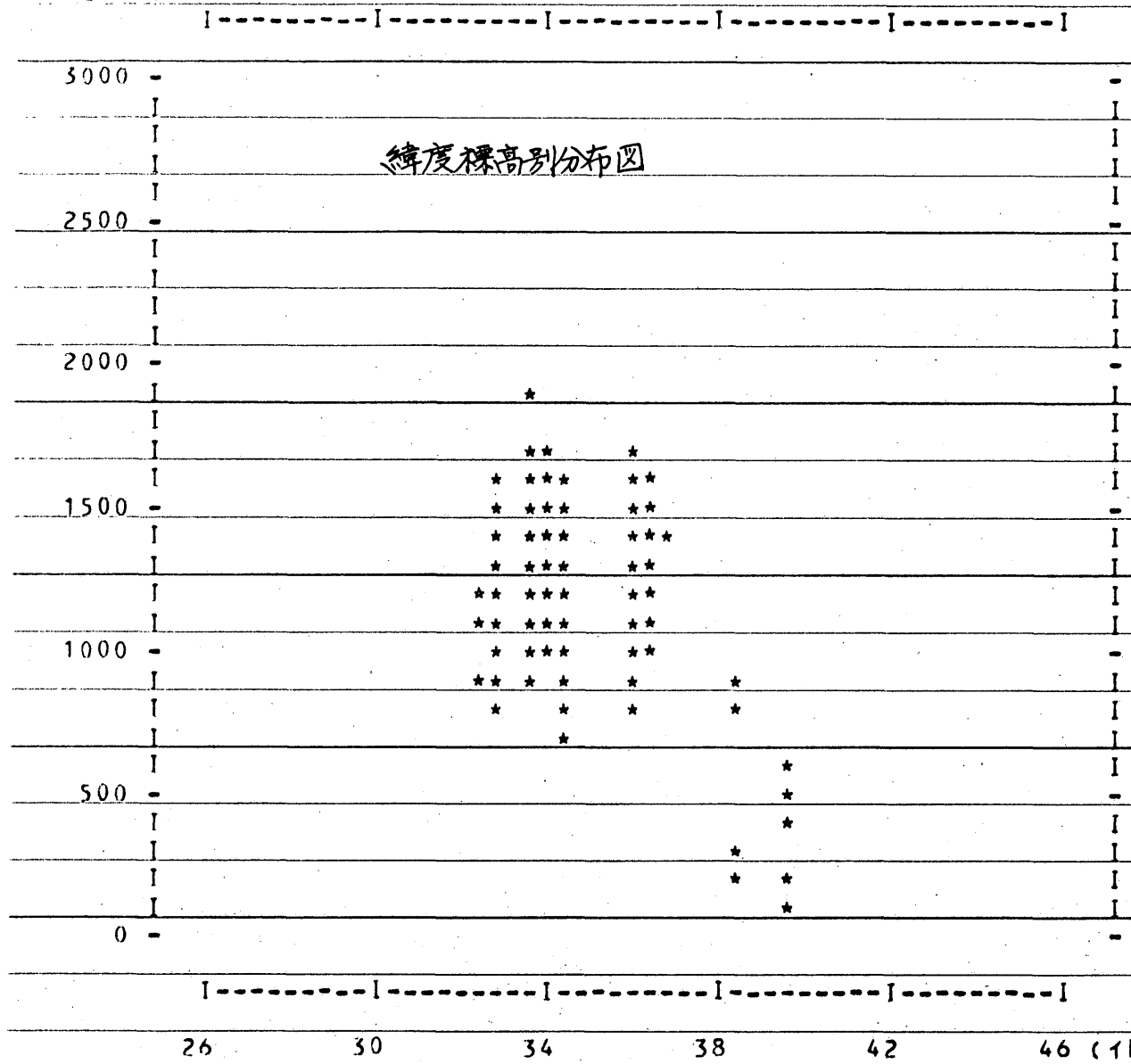
- 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9
- \* 出現県



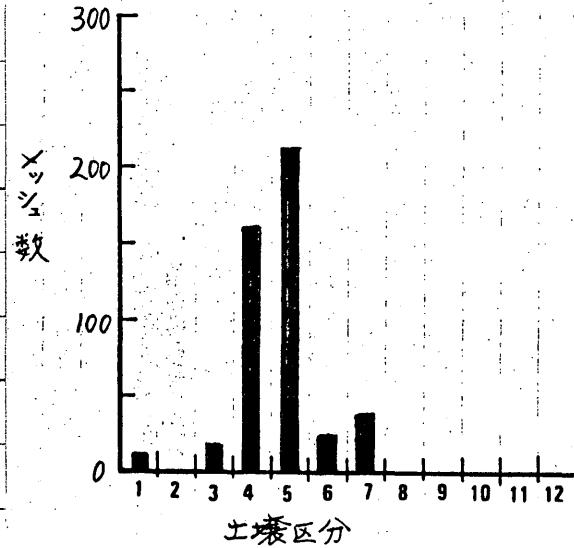
コード	群落名	メッシュ数	出現県
40200A	スズタケブナ群団	326	岩手, 宮城, 群馬, 岐阜, 兵庫, 奈良, 和歌山, 徳島, 愛媛, 熊本
40200B	ブナ-スズタケ群団	78	滋賀, 高知
40201C	ブナ-スズタケ群集	85	栃木, 埼玉, 三重, 大分
	計	489	



緯度標高別分布図

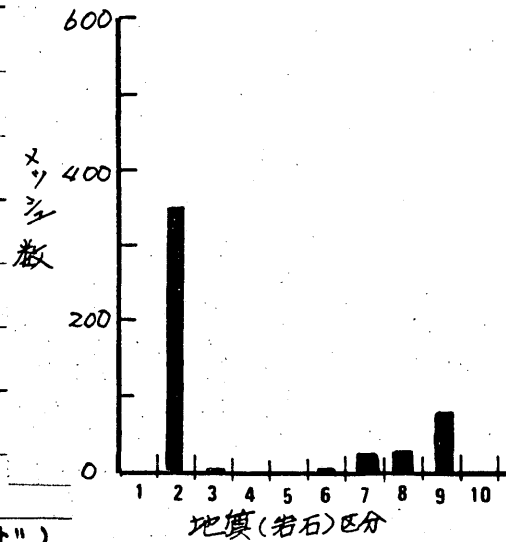


土壌区分別頻度図



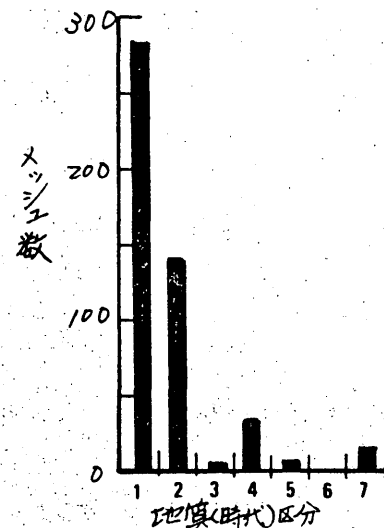
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



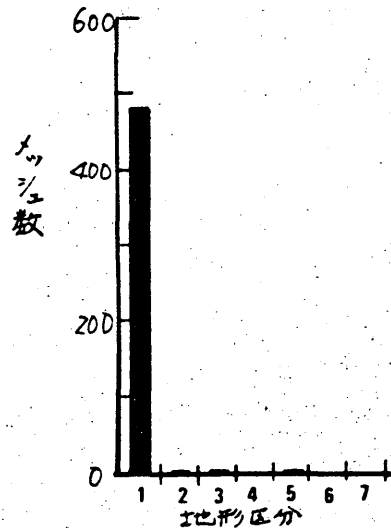
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 緩丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂洲

ヤマボウシーブナ群集 *Corno-Fagetum crenatae*

〈相観〉 落葉広葉樹の高木林，亜高木林。群落高は13~20m，時に28mに達する。4層構造となっている。

〈分布地〉 太平洋側のフカツサ・マクナ地帯を中心とする冷温帯に分布する。急傾斜地や露岩地などを除く山腹斜面の弱乾性~適潤性立地に広がっている。冬季季節風の強い風衝地にもみられる。

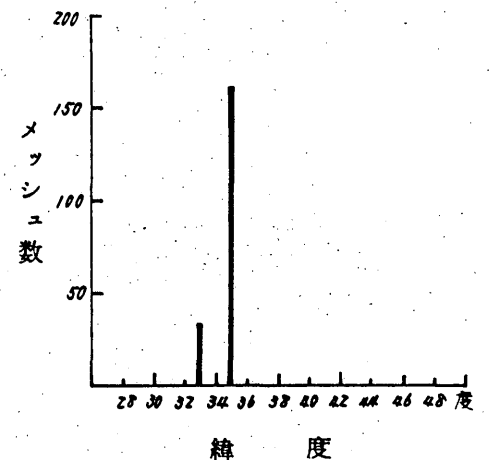
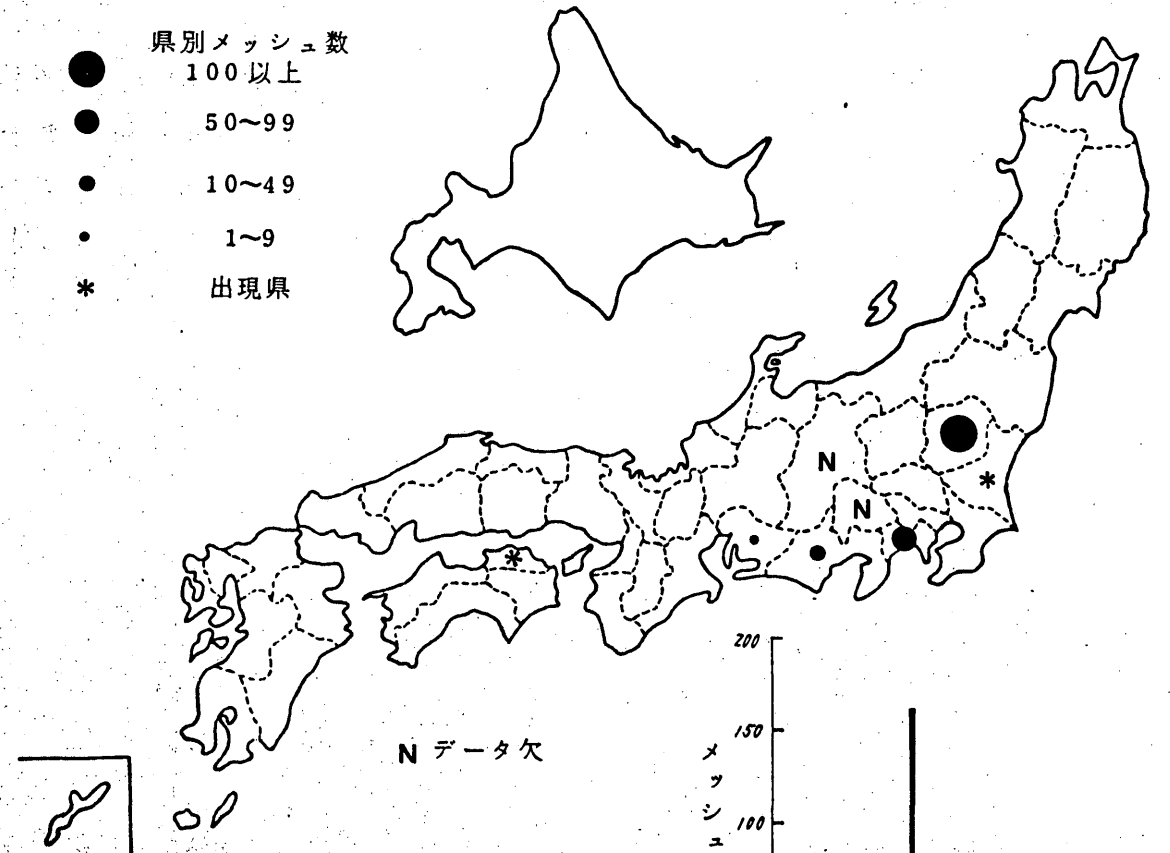
〈種組成〉 高木層にはブナが優占し，ミズナラ，オオクマヤメイゲツ，イヌシデ，フマシデなどの落葉広葉樹が混生している。ウラジロモミ，モミ，ツガなど常緑針葉樹を混えることもある。亜高木層にはこの他ヤマボウシ，ヨグソミネバシ，ヒメシャラなどが生育している。低木層は弱乾性地ではアセビ，シロヤシロ，トウコクシツバフツジなどのツツジ科植物が顕著で，スズタケの優占度が高い。適潤地ではアブラキマン，イヌカヤ，オオカメノキ，ツツバネウツギなどが生育している。草本層にはオクモミジハグマ，ミヤマナルコユリ，オヤマノクサなどが生育している。この群落はシラキ，ツツバネウツギ，ヤマボウシ，シロモジなどを特徴種，基分種としてヤマボウシーブナ群集にまとめられている。

〈群落の特徴〉 太平洋側のフカツサ・マクナ地帯を中心に分布するブナの優占する落葉広葉樹林である。種組成的にはスズタケ-ブナ群落到に含まれる。

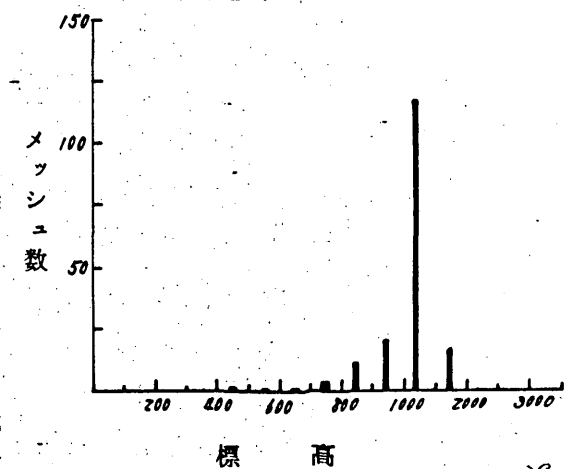
〈分布〉 関東地方北部の茨城県，栃木県から愛知県の高標高900~1500mに断片的に分布している。香川県大滝山のブナ林も同群集として扱われている。

\*40201 ヤマボウシーブナ群集

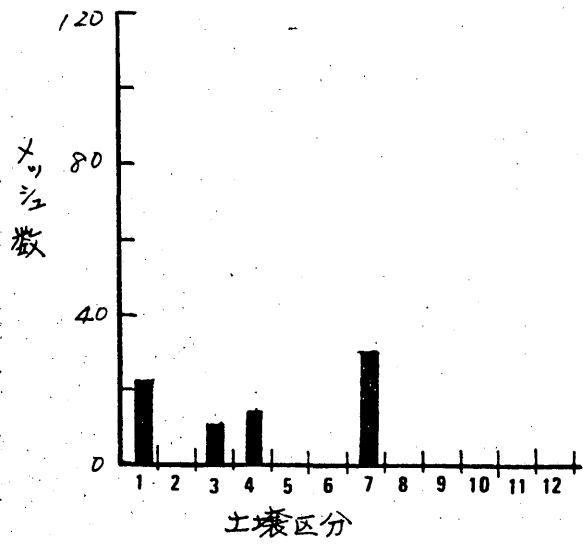
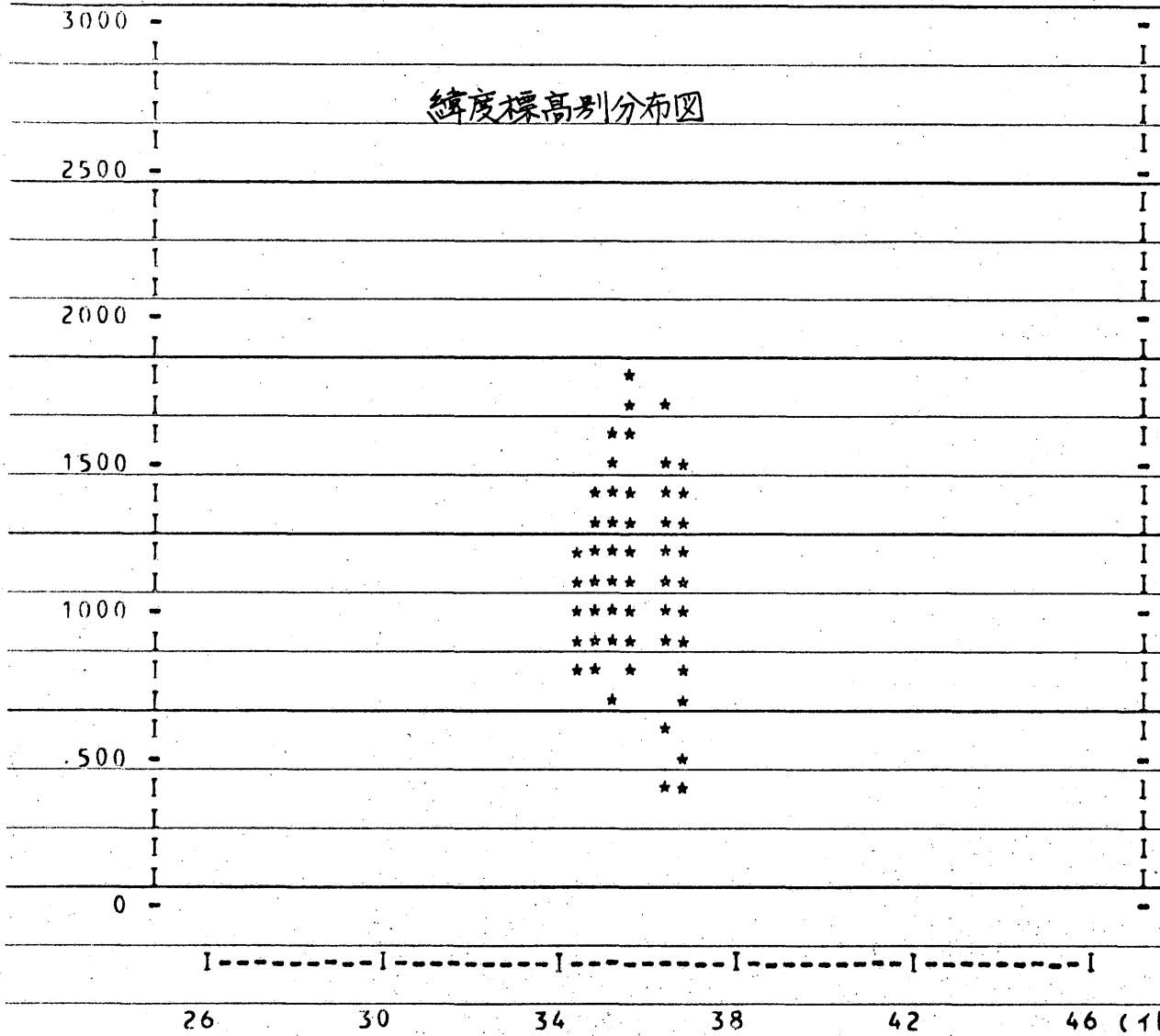
- 県別メッシュ数 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9
- \* 出現県



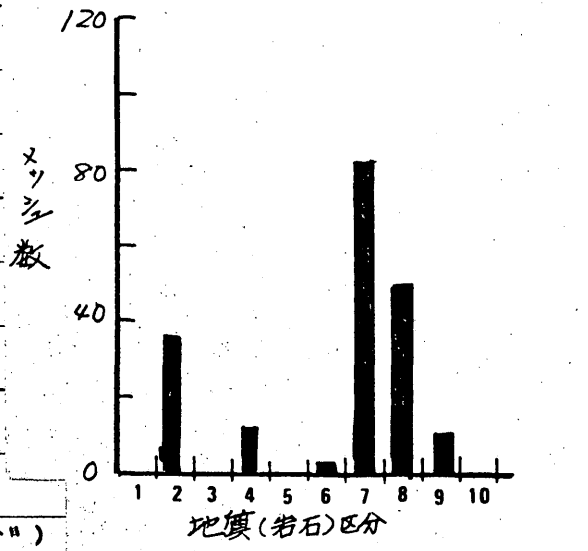
コード	群落名	メッシュ数	出現県
40201A	ヤマボウシーブナ群集	91	神奈川県, 静岡県, 愛知県, 愛媛県
40201B	ブナ-ツツバネウツギ群集	0	茨城県
40201C	ブナ-ミヤマササ群集	103	栃木県
40200D	ブナ-スズタケ群集	-	
	計	194	



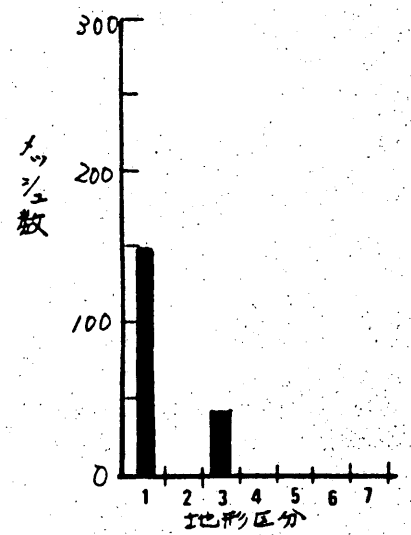
I-----I-----I-----I-----I-----I



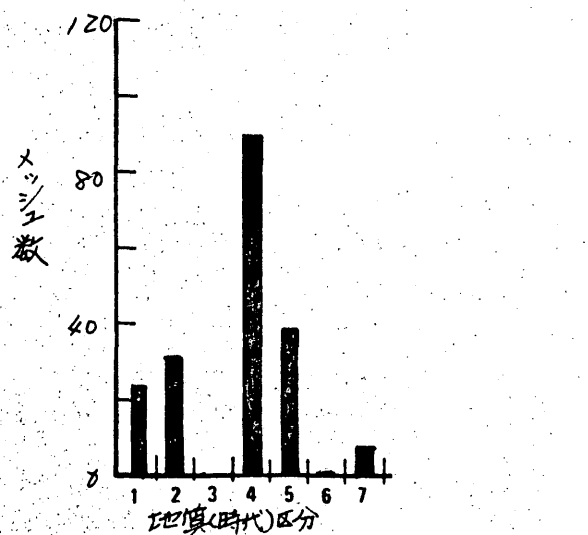
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他



- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 緩丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂州



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

イヌブナ群集

Fagus japonica Community

<相観> 落葉広葉樹の高木林, 亜高木林. 群落高は15~25m程度である. 4~5層構造となっている.

<生育地> 東北, 関東, 中部地方の太平洋側を中心とする. ブナクラス域とヤブツバキクラス域の移行帯に分布している. ブナ林より低標高の山腹斜面の通潤性立地を中心に広い分布域を占めるが, (17.3) 急傾斜地や石灰岩地などの弱乾性立地にもみられる. 準裏日本気候にも分布.

<種組成> 高木層にはイヌブナが優占している. この他, アカシデ, イヌレデ, ミズナラ, ヨグソミナバリ, イタヤカエデ, コナラ, ブナなど, 多種の落葉広葉樹が高木層, 亜高木層を形成している. 林床は通潤性斜面では一般にススタケが優占し, 崩壊性の強い斜面ではコアシサイ, クロエビなどの枯木とともにカンスゲ, コカンズゲ, ケゴユリ, オクモミジバクマなどの草本植物が多くみられる. 準裏日本気候に発達するイヌブナ林では, チャボカヤ, ハイイヌカヤ, チシマササなどの日本海側に特徴的に出現する種が生育している. この群落はイヌブナを標徴種とするイヌブナ群集にまとめられている.

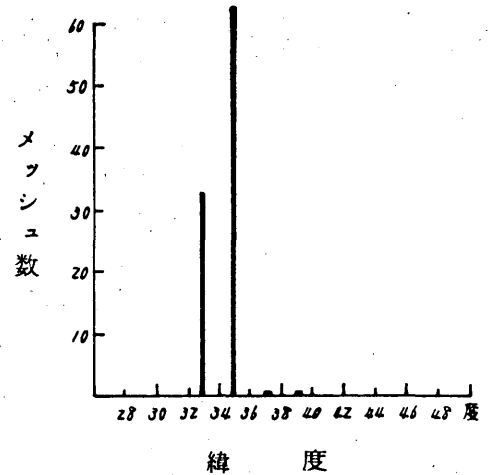
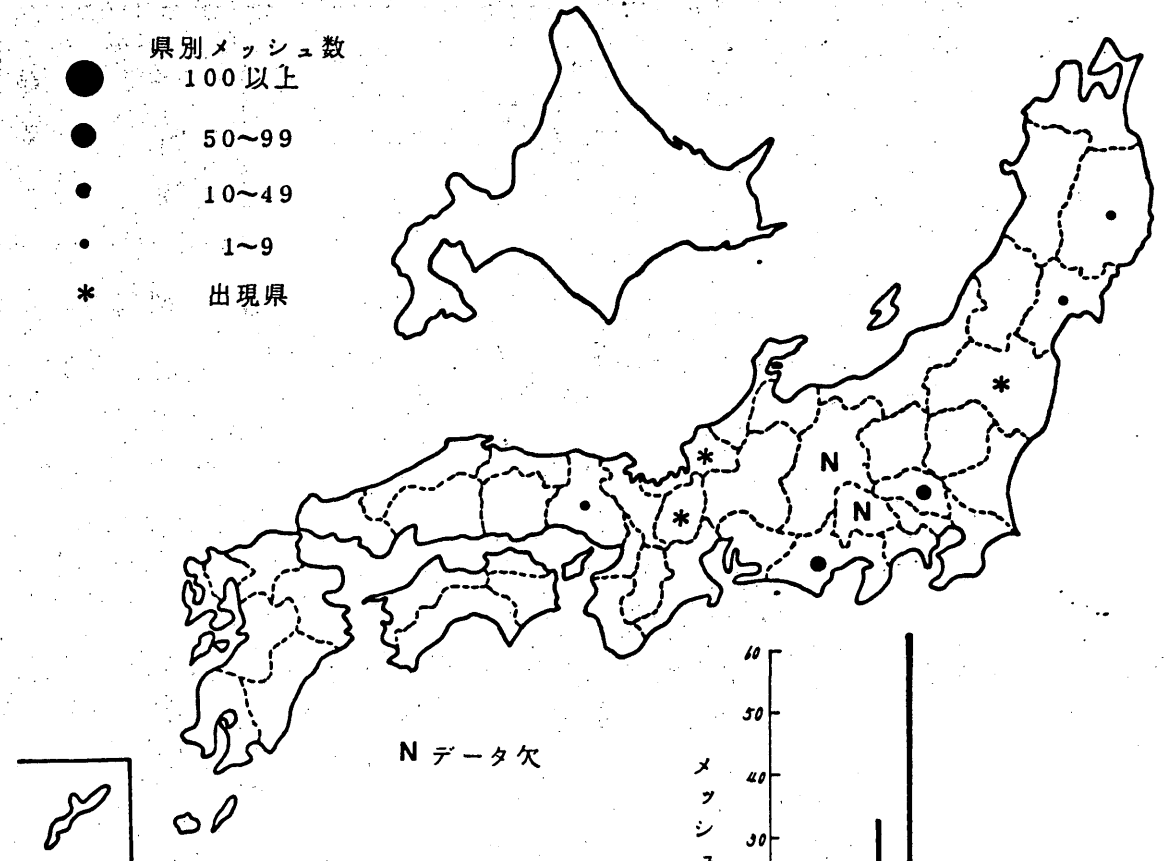
<群落の特徴> ヤブツバキクラス域とブナクラス域の移行帯に分布するイヌブナの優占する落葉広葉樹林である. 東北, 関東, 中部地方の太平洋側を中心として分布しているが, 日本海側でも冬季積雪量のやや少ない準裏日本気候域にみられる.

<分布> 太平洋側では岩手県沿岸部を北限とし, 北上山地(標高200~500m), 阿武隈山地(100~700m), 秩父山地(650~900m), 大井川上流域(800~1400m)などにモサイク状に分布している. 日本海側では福井県敦賀付近(450~580m), 比良山地(400~900m), 兵庫県音水溪谷などの準裏日本気候域にみられる.

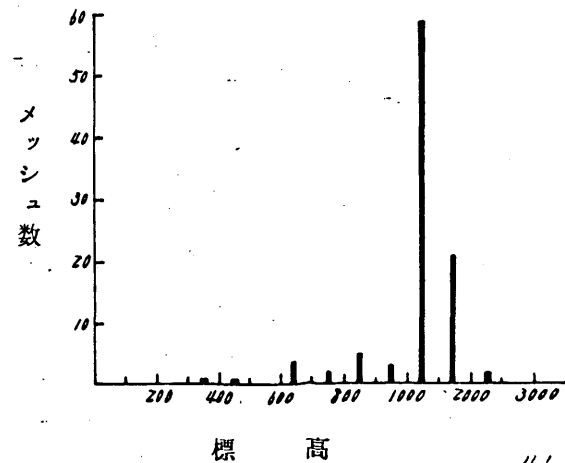
<その他> 太平洋側と日本海側のイヌブナ群集は種組成的に著しく異なっている. 伐採に対して早急な保護が必要である.

\*40203 イヌブナ群集

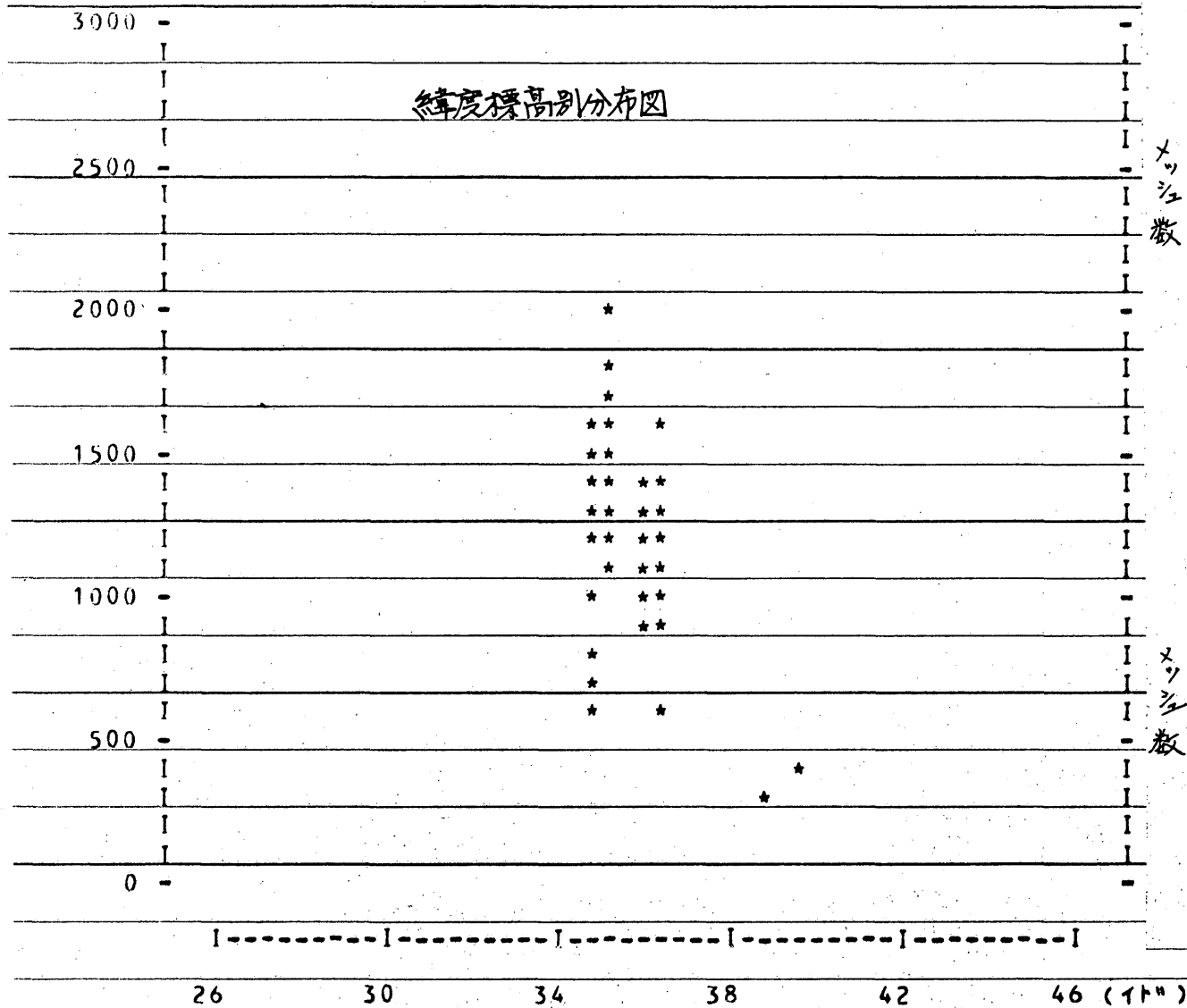
- 県別メッシュ数 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9
- \* 出現県



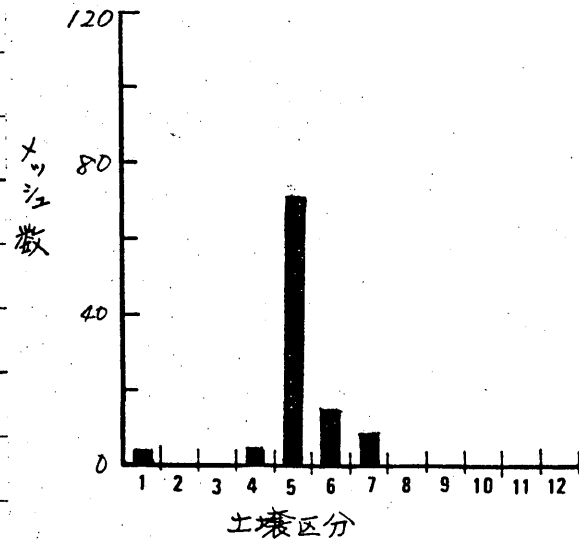
コード	群落名	メッシュ数	出現県
40203A	イヌブナ群集	91	岩手, 宮城, 福島, 福井, 埼玉, 静岡, 滋賀
40203B	イヌブナ-チャボカヤ群集	7	兵庫
40203C	イヌブナ群落	0	
	計	98	



緯度標高別分布図

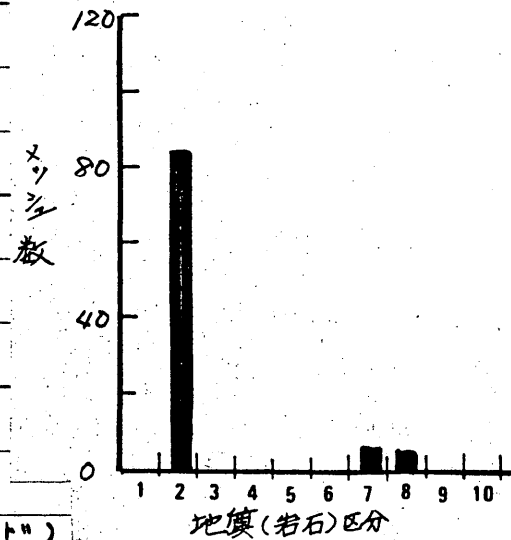


土壌区分別頻度図



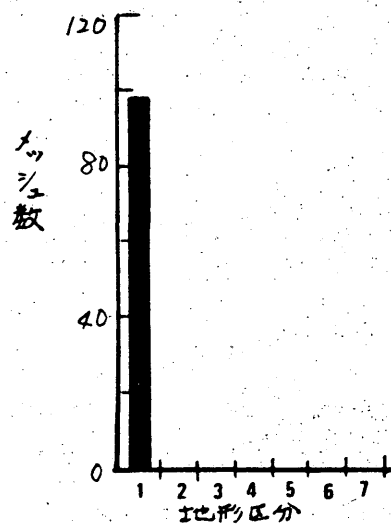
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



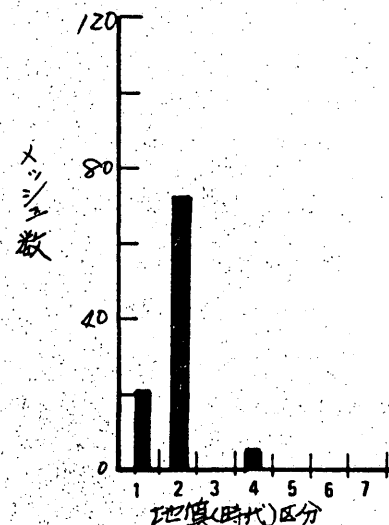
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、緩丘
- 6 低地
- 7 河川、砂州

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他